

授業計画表

愛玩動物看護師 学科

盛岡ペットワールド専門学校

| | | | | | | | |
|--|---|---------|------|-----|-----|------------|---------|
| 科目名 動物形態機能学 | 教員名 谷口和之 | | | | | | |
| 科目時間数 : 120 時間 | 授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 | | | | | | |
| 必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択 | 配当学年 : 1 開講時期 : <input checked="" type="checkbox"/> 前期・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期・集中 | | | | | | |
| <p>【授業の目的・ねらい】 動物の生命維持の仕組みと、解剖学及び生理学の基礎を知り、生命体としての動物を理解できるようにする。</p> <p>解剖学では動物体の構造について、生理学では動物体の機能について学習する。動物病院の臨床において、あらゆる診療知識や技術の基本となるのが解剖学と生理学であり、また、内科学及び外科学などについて理解する際にも解剖学や生理学の知識は必要不可欠であり、それらを正しく理解し、診療チームとしてより有効な動物看護ができることを目指す。</p> | | | | | | | |
| <p>【愛玩動物看護師科ディプロマポリシーとの関連】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 基本的な動物看護師としての技術を獲得している ② 動物の体の構造、仕組みが理解できる 3. 人や動物の気持ちを考えて、コミュニケーションが取れる 4. 働くという事への心構えが出来ている | | | | | | | |
| <p>【授業における達成課題】 動物病院においての診療対象は主に犬や猫であるため、特にその内容を基本に解剖学及び生理学の理解を深める。 筆記試験での正答が60%以上、動物看護師試験の合格。</p> | | | | | | | |
| | <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%; text-align: center;">使用教材</td> <td style="width: 33%; text-align: center;">出版社</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">学生用</td> <td style="padding: 5px;">動物看護コアテキスト</td> <td style="padding: 5px;">ファームプレス</td> </tr> </table> | | 使用教材 | 出版社 | 学生用 | 動物看護コアテキスト | ファームプレス |
| | 使用教材 | 出版社 | | | | | |
| 学生用 | 動物看護コアテキスト | ファームプレス | | | | | |
| <p>【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無</p> <p>【内 容】</p> | | | | | | | |
| <p>【評価方法とその内容】 筆記試験での正答が60%以上、授業出席率80%以上。</p> | | | | | | | |
| <p>【必要な予習等の内容】 毎回の授業の最後に、次回の授業内容について教科書を活用して予習を指示し実行する。</p> | | | | | | | |

| 科目名 | | 科目時間総数 | 教員名 |
|---------|----------------------|---|------|
| 動物形態機能学 | | 120 時間 | 谷口和之 |
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | |
| 1 回 | 形態機能概論① | 解剖生理学を学ぶために自然界における動物を理解する | |
| 2 回 | 形態機能概論② | 解剖生理学の基礎知識として細胞について理解する | |
| 3 回 | 形態機能概論③ | 解剖生理学を学ぶために細胞の構成成分である化学物質について理解する | |
| 4 回 | 形態機能概論④ | 細胞内で行われる合成とエネルギー成分について理解する | |
| 5 回 | 形態機能概論⑤ | 細胞の増殖と染色体について学ぶ | |
| 6 回 | 形態機能概論⑥ | 上皮組織、筋組織の概要と統合組織について理解する | |
| 7 回 | 比較解剖 犬と猫の体の構造と機能① | 体の区分、体腔、胸腔にある臓器の種類と位置、腹腔にある臓器の種類と位置について理解する | |
| 8 回 | 比較解剖 犬と猫の体の構造と機能② | 生命維持システム、運動・調整システム、細胞膜で行われる拡散と浸透、ナトリウムポンプについて理解する | |
| 9 回 | 比較解剖 犬と猫の体の構造と機能③ | 心臓の構造と機能、動脈と静脈、大循環、小循環について理解する | |
| 10 回 | 比較解剖 犬と猫の体の構造と機能④ | 肺の構造、外呼吸、内呼吸、肺におけるガス交換について理解する | |
| 11 回 | 比較解剖 犬と猫の体の構造と機能⑤ | 消火器系全体の構造、消火器系全体の機能、消火器系全体の蠕動運動、犬猫の盲腸の特徴について理解する | |
| 12 回 | 比較解剖 犬と猫の体の構造と機能⑥ | 泌尿器系全体の構造と機能、尿生成の機序やの尿生成以外の腎臓の機能、膀胱について理解する | |
| 13 回 | 比較解剖 犬と猫の体の構造と機能⑦ | 生殖器全体の構造、犬と猫の雄の副生殖腺、犬と猫の子宮の構造、犬と猫の排卵について理解する | |
| 14 回 | 比較解剖 トリの体の構造と機能① | 鳥類の骨格系の構造、特徴、感覚器・鳥類の呼吸器系、循環器系などを学ぶ。肺胞、横隔膜が無いことやガス交換について理解する | |
| 15 回 | 比較解剖 トリの体の構造と機能② | 鳥類の消火器系、泌尿器科系、生殖器系の構造、総排泄腔、雌の卵巣、子宮の発達には左側のみを理解する | |
| 16 回 | 比較解剖 ウサギの体の構造と機能 | ウサギの筋骨格系、消火器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系の構造、発達した盲腸、釘歯子宮の特徴、新生子について理解する | |
| 17 回 | 比較解剖 ネズミ亜目の体の構造と機能 | ネズミ亜目ネズミ科の動物、キヌゲネズミ科の動物、ハムスター、スナネズミの臭腺、シリアンハムスターについて理解する | |
| 18 回 | 比較解剖 ヤマアラシ亜目の体の構造と機能 | モルモット、チンチラの体の構造について理解する | |
| 19 回 | 比較解剖 フェレットの体の構造と機能 | フェレットの体の構造について理解する | |
| 20 回 | 比較解剖 爬虫類の体の構造と機能 | カメ・トカゲ・ヘビの体の構造について理解する | |
| 21 回 | 比較解剖 産業動物の体の構造と機能① | 反芻の体の構造について理解する | |
| 22 回 | 比較解剖 産業動物の体の構造と機能② | ブタ・草食動物の体の構造について理解する | |
| 23 回 | 比較解剖 魚類の体の構造と機能 | 魚類の体の構造について理解する | |
| 24 回 | 比較解剖 犬と猫の骨格系 | 犬、猫の骨格系を理解する | |
| 25 回 | 循環器系の構成① | 体内にある循環器系の構成を理解する | |
| 26 回 | 循環器系の構成② | 心臓の位置と外形、4つの部屋と4つの弁、ポンプとしての役割、構造面を理解する | |
| 27 回 | 循環器系の構成③ | 冠状血管系、冠状循環、心臓に分布する神経を理解する | |
| 28 回 | 心臓の生理的機能① | 心臓の自動性と歩調、興奮の伝達、リズムの変化と潜在的歩調を理解する | |
| 29 回 | 心臓の生理的機能② | 心電図の導出、記録される波形、波形異常を理解する | |
| 30 回 | 心臓の生理的機能③ | 心拍出量と血圧の調整、心周期、心音と雑音、大動物と小動物の心拍数の違いを理解する | |

| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 |
|---------|---------------|---|
| 31 回 | 末梢循環器系の構造① | 血管の構造、毛細血管、臓器等による毛細血管の違い、側副循環と吻合、毛細血管の体温調節、物質交換の機序、浮腫を理解する |
| 32 回 | 末梢循環器系の構造② | 静脈の構造、静脈弁と筋ポンプ、体循環としての静脈と門脈について理解する。肺動脈、肺静脈を流れる血液を理解する。 |
| 33 回 | 末梢循環器系の構造③ | 大動脈の分岐、横隔膜を通過する大動脈、大腿動脈の位置と脈拍の触知について理解する |
| 34 回 | 血液の循環の調整① | 心臓の生理的機能、血圧、血圧の変化を理解する |
| 35 回 | 血液の循環の調整② | レニン-アンジオテンシン系、ノルアドレナリン、グルココルチコイド、アドレナリンを理解する |
| 36 回 | リンパとリンパ管① | リンパ管の分布と血管分布、リンパ液、リンパ節、胸管を理解する。リンパ循環と胸管の関係、悪性腫瘍の転移を理解する。 |
| 37 回 | リンパとリンパ管② | 胸線の位置、年齢による胸線の違い、胸線の機能を理解する。脾臓の位置、血液循環、機能を理解する。 |
| 38 回 | 呼吸器の構造① | 鼻、鼻腔、咽頭や咽頭における咽頭蓋の機能を理解する |
| 39 回 | 呼吸器の構造② | 気管、気管支、肺、気管絨、肺葉の構造、動物種による肺葉数の違いを理解する |
| 40 回 | 呼吸器系の動き① | 呼吸器系の機能、呼吸器系における血液の機能を理解する。内呼吸、外呼吸を理解する |
| 41 回 | 呼吸器系の動き② | 気道の細胞と異物の排出、クララ細胞、肺胞を理解する |
| 42 回 | 呼吸器系の動き③ | 呼吸のメカニズム、呼吸筋と肺の収縮、せき、くしゃみ、しゃっくり、あくびについて理解する |
| 43 回 | 呼吸器系の動き④ | 呼吸数と心拍数の運動、換気量、肺活量、残気量を理解する |
| 44 回 | 呼吸器系の動き⑤ | 肺におけるガス交換、呼気、呼気のガス組成と血液ガスを理解する |
| 45 回 | 呼吸器系の動き⑥ | 酸素の運搬、酸素解離曲線、二酸化炭素の運搬を理解する |
| 46 回 | 呼吸器系の動き⑦ | 循環器系の構成、末梢循環器系の構造、肺の血液と血圧、換気と血流の調整、胎子循環を理解する |
| 47 回 | 呼吸器系の動き⑦ | 呼吸の神経性調節、化学受容器、酸塩基平衡、過換気症候群を理解する |
| 48 回 | 呼吸器系の病態生理 | アシドーシスとアルカローシス、換気障害、拡散障害、換気血流比不均衡を理解する |
| 49 回 | 血液① | 血液の組成と機能について理解する |
| 50 回 | 血液② | 血液の水分と物質輸送、白血球の機能、血症板の止血作用を理解する |
| 51 回 | 血液③ | 赤血球の数、血色素ヘモグロビン濃度、ヘマトクリット、哺乳類の赤血球の特徴を理解する |
| 52 回 | 血液④ (赤血球) | ヘモグロビンの構造、ヘモグロビンと酸素の結合を理解する |
| 53 回 | 血液⑤ (赤血球) | 赤血球を産生とエリスオポエチン、赤血球の破壊方法、動物種による赤血球の寿命、ヘムタンパクからつくられるビリルビンを理解する |
| 54 回 | 血液⑥ (白血球) | 顆粒球、好中球、好酸球、好塩基球、犬猫における顆粒球の割合を理解する |
| 55 回 | 血液⑦ (白血球) | 単球、リンパ球、マクロファージを理解する |
| 56 回 | 血液⑧ (血小板) | 血小板の生成、はたらき、二次止血、止血栓の除去を理解する |
| 57 回 | 血液⑨ | タンパク質の種類、グロブリンの種類、物質の運搬、血液凝固への関与、抗体としての役割を理解する |
| 58 回 | 血液⑩ | 血液凝固因子、プロトロンビンとビタミンK、血液凝固とカルシウムイオン、血液凝固防止剤とワルファリン中毒を理解する |
| 59 回 | 血液⑪ | 出血時間、凝固時間、繊維素溶解とプラスミン、播種性血管内凝固を理解する |
| 60 回 | 血液⑫ | ABO式血液型と複式立遺伝子、Rh式血液型を理解する。犬の血液型、猫の血液型とその割合を理解する。 |

| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 |
|---------|---------------|---|
| 61 回 | 血液⑬ | 赤血球・血漿にある凝集原について学ぶ。交差適合試験の必要性などを理解する。 |
| 62 回 | 血液⑭ | 犬と猫の輸血における急性溶血反応を理解する |
| 63 回 | 外部環境からの防御① | 皮膚の構造と機能について理解する。皮膚の付属器について理解する。 |
| 64 回 | 外部環境からの防御② | 皮膚の血管と神経について理解する。非特異的防御機能について理解する。 |
| 65 回 | 外部環境からの防御③ | 特異的防御機能について理解する |
| 66 回 | 外部環境からの防御④ | 液性免疫と抗体について理解する |
| 67 回 | 外部環境からの防御⑤ | ワクチン接種とアレルギーについて理解する |
| 68 回 | 外部環境からの防御⑥ | 生体防御の関連臓器について理解する |
| 69 回 | 外部環境からの防御⑦ | 熱の出納について理解する |
| 70 回 | 外部環境からの防御⑧ | 恒温動物と変温動物について理解する |
| 71 回 | 外部環境からの防御⑨ | 体温調節について、高体温と低体温について理解する。 |
| 72 回 | まとめ | 血液の機能、自己防護について理解する。 |
| 73 回 | 情報の受容と処理① | 神経系の構造と機能について理解する。ニューロンでの興奮の伝達について学ぶ。 |
| 74 回 | 情報の受容と処理② | 神経系の構造と機能について理解する。中枢神経と末梢神経について学ぶ。 |
| 75 回 | 情報の受容と処理③ | 中枢神経である脊髄と脳を理解する。灰白質・白質・脊髄の構造・脊髄反射について学ぶ。 |
| 76 回 | 情報の受容と処理④ | 中枢神経である脊髄と脳を理解する。脳幹の構造と機能、延髄の機能について学ぶ。 |
| 77 回 | 情報の受容と処理⑤ | 中枢神経である脊髄と脳を理解する。小脳・間脳・視床下部・下垂体について学ぶ。 |
| 78 回 | 情報の受容と処理⑥ | 中枢神経である脊髄と脳を理解する。大脳・大脳皮質・大脳髄質の構造について学ぶ。 |
| 79 回 | 情報の受容と処理⑦ | 中枢神経である脊髄と脳を理解する。髄膜・脳脊髄液・血液脳関門について学ぶ。 |
| 80 回 | 情報の受容と処理⑧ | 脊髄神経と脳神経について理解する。脊髄神経の構造と脳神経12対について学ぶ。 |
| 81 回 | 情報の受容と処理⑨ | 末梢神経について理解する。体性神経と自律神経について学ぶ。 |
| 82 回 | 情報の受容と処理⑩ | 末梢神経について理解する。自律神経系の構成・機能、交感神経・副交感神経について学ぶ。 |
| 83 回 | 感覚と情報伝達① | 眼の構造と付属器（眼瞼・結膜・涙器・眼筋・タペタム）について理解する。 |
| 84 回 | 感覚と情報伝達② | 眼の構造と視覚について学ぶ。視覚機能・遠近調節・明反応と暗反応・眼球運動について学ぶ。 |
| 85 回 | 感覚と情報伝達③ | 耳の基本的構造・外耳・内耳について学ぶ。 |
| 86 回 | 感覚と情報伝達④ | 味覚器・嗅覚器の構造について理解する。 |
| 87 回 | 感覚と情報伝達⑤ | 痛覚について理解する。体性痛と内臓痛、痛みの分類、疼痛の伝達、内因性鎮痛物質について学ぶ。 |
| 88 回 | からだの支持と運動① | 骨格を構成をする骨、骨の組織と組成について理解する。 |
| 89 回 | からだの支持と運動② | 骨の発生と成長、機能、カルシウムの貯蔵、造血について理解する。 |
| 90 回 | からだの支持と運動③ | 関節の構造と形状、関節運動の障害、不動性の連結について理解する。 |

| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 |
|----------|---------------|---|
| 91 回 | からだの支持と運動④ | 筋系の構造、骨格筋、平滑筋、心筋について学ぶ。 |
| 92 回 | からだの支持と運動⑤ | 骨格筋の形成、筋膜、赤筋の構造、白筋の構造について理解する。 |
| 93 回 | からだの支持と運動⑥ | 骨格筋の神経支配について理解する。 |
| 94 回 | からだの支持と運動⑦ | 横隔膜について理解する。 |
| 95 回 | からだの支持と運動⑧ | 腹壁を構成する筋について理解する。 |
| 96 回 | まとめ | 情報の受容器としての感覚器について、情報の伝達器としての神経、神経伝達物質と自律神経について学ぶ。筋系骨格系について学ぶ。 |
| 97 回 | 栄養の消化と吸収① | 口腔・唾液腺・歯・咽頭・食道について理解する。 |
| 98 回 | 栄養の消化と吸収② | 腹部消化管である胃の構造と機能について理解する。 |
| 99 回 | 栄養の消化と吸収③ | 腹部消化管である小腸の構造と機能について理解する。 |
| 100 回 | 栄養の消化と吸収④ | 腹部消化管である大腸の構造と機能について理解する。 |
| 101 回 | 栄養の消化と吸収⑤ | 腹部消化管である膵臓の構造と機能について理解する。 |
| 102 回 | 栄養の消化と吸収⑥ | 腹部消化管である肝臓と胆嚢の構造・機能について理解する。 |
| 103 回 | 栄養の消化と吸収⑦ | 腹膜と腸間膜の機能について理解する。 |
| 104 回 | 内臓機能の調整① | 自律神経の機能・交感神経・副交感神経の構造・機能について理解する。 |
| 105 回 | 内臓機能の調整② | 内分泌について、分泌物の伝わり方とホルモンの特徴について理解する。 |
| 106 回 | 内臓機能の調整③ | ホルモンによる調節、生理作用について理解する。 |
| 107 回 | 内臓機能の調整④ | ホルモンのフィードバック機能について理解する。 |
| 108 回 | 内臓機能の調整⑤ | 視床下部と下垂体系について理解する。 |
| 109 回 | 内臓機能の調整⑥ | 甲状腺の構造と機能について理解する。 |
| 110 回 | 内臓機能の調整⑦ | 副甲状腺の構造と機能、上皮小体について理解する。 |
| 111 回 | 内臓機能の調整⑧ | 膵臓（ランゲルハンス島）の構造と機能について理解する。 |
| 112 回 | 内臓機能の調整⑨ | 副腎の構造と機能について理解する。 |
| 113 回 | 内臓機能の調整⑩ | 性腺の構造と機能について理解する。 |
| 114 回 | 内臓機能の調整⑪ | 消化管、腎臓、胎盤などの内分泌線について理解する。 |
| 115 回 | 体液の調整と尿の生成① | 腎臓の構造と機能、糸球体について理解する。 |
| 116 回 | 体液の調整と尿の生成② | 尿細管の構造と機能について理解する。 |
| 117 回 | 体液の調整と尿の生成③ | 傍糸球体装置、腎臓から分泌される生理活性物質について理解する。 |
| 118 回 | 体液の調整と尿の生成④ | 排尿路の構造について理解する。 |
| 119 回 | 体液の調整と尿の生成⑤ | 尿の貯蔵と排尿について理解する。 |
| 120 回 | 体液の調整と尿の生成⑥ | 体液の調節について（酸塩基平衡、電解質の異常）について理解する。 |

授業計画表

愛玩動物看護師

学科

盛岡ペットワールド専門学校

| | |
|--|--|
| 科目名 動物感染症学 | 教員名 片山 理恵子 |
| 科目時間数 : 30 時間 | 授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習 |
| 必修・選択の別 : 必修・選択 | 配当学年 : 1 開講時期 : 前期・後期・集中 |
| <p>【授業の目的・ねらい】 犬や猫をはじめ、動物の感染症を理解することは、獣医療に関わるものとして大変重要である。主に犬や猫に感染する微生物や寄生虫の特徴や生活環、感染経路、病状について学習し、予防と看護に活かす。</p> | |
| <p>【愛玩動物看護師科ディプロマポリシーとの関連】 ① 基本的な動物看護師としての技術を獲得している 2. 動物の体の構造、仕組みが理解できる 3. 人や動物の気持ちを考えて、コミュニケーションが取れる 4. 働くという事への心構えが出来ている</p> | |
| <p>【授業全体の内容の概要】 感染症を予防するためには、感染症の発生機序、原因となる病原体についての理解が必要である。感染、発症の定義、感染の成り立ちにちて学習し、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようにする。</p> | |
| <p>【授業における達成課題】 筆記試験において正答60%以上、動物看護師試験の合格。</p> | |
| | 使用教材 |
| 出版社 | |
| 学生用 | 動物看護コアテキスト |
| | ファームプレス |
| <p>【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無</p> | |
| <p>【内 容】 獣医師として動物病院に勤務経験がある。</p> | |
| <p>【評価方法とその内容】 筆記試験において正答が60%以上、授業出席率80%以上。</p> | |
| <p>【必要な予習等の内容】 毎回の授業の最後に、次回の授業内容について教科書を活用して予習を指示して実行する。</p> | |

| 科目名 | | 科目時間総数 | 時間 | 教員名 |
|--------|---------------|---------------------------|----|--------|
| 動物感染症学 | | 30 | | 片山 理恵子 |
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | | |
| 1回 | 感染・感染症とは | 感染、発症、感染症を理解し定義が言えるようになる。 | | |
| 2回 | 感染経過 | 水平感染、垂直感染について理解する。 | | |
| 3回 | 宿主の感染防御 1 | 上皮の防御を理解する | | |
| 4回 | 宿主の感染防御 2 | 自然免疫、獲得免疫を理解する | | |
| 5回 | 細菌 | 細菌の構造を理解する。 | | |
| 6回 | 細菌の構造 1 | 細胞壁、細胞質膜を理解する。 | | |
| 7回 | 細菌の構造 2 | 細菌質、莢膜を理解する。 | | |
| 8回 | 細菌の構造 3 | 鞭膜、線毛、芽胞を理解する。 | | |
| 9回 | 細菌の分類 | 階級的分類、増殖を理解する。 | | |
| 10回 | 環境因子 1 | 酸素、水素イオン濃度、温度を理解する。 | | |
| 11回 | 環境因子 2 | 塩化ナトリウム、増殖様式を理解する。 | | |
| 12回 | バイオフィーム | バイオフィームについて理解する。 | | |
| 13回 | 細菌の培養と同定 | 細菌の培養と同定等を理解する。 | | |
| 14回 | 培養方法 | 好気培養、嫌気培養を理解する。 | | |
| 15回 | 同定 1 | 分離培養と純培養を理解する。 | | |
| 16回 | 同定 2 | 染色法、同定、遺伝的検査を理解する。 | | |
| 17回 | 治療 | 薬剤感受性試験について理解する。 | | |
| 18回 | 動物感染症学まとめ | 復習と確認テストにより理解を深める。 | | |
| 19回 | 動物感染症学まとめ | 復習と確認テストにより理解を深める。 | | |
| 20回 | 抗菌薬の作用 1 | 細胞壁合成阻害薬について理解する。 | | |
| 21回 | 抗菌薬の作用 2 | タンパク質合成阻害薬について理解する。 | | |
| 22回 | 抗菌薬の作用 3 | 核融合阻害薬について理解する。 | | |
| 23回 | 抗菌薬の作用 4 | 補酸素阻害薬について理解する。 | | |
| 24回 | 抗菌薬の作用 5 | 細胞学疾病薬について理解する。 | | |
| 25回 | 薬剤耐性菌 | 薬剤耐性菌について理解する。 | | |
| 26回 | 菌交代症 | 菌交代症について理解する。 | | |
| 27回 | 薬物アレルギー | 薬物アレルギーについて理解する。 | | |
| 28回 | 犬猫の主な感染症 1 | サルモネラ感染症、緑膿菌感染症について理解する。 | | |
| 29回 | 犬猫の主な感染症 2 | パウツレラ症、レプトスピラ症について理解する。 | | |
| 30回 | 犬猫の主な感染症 3 | ブルセラ症、歯周病について理解する。 | | |

授業計画表

愛玩動物看護師

学科

盛岡ペットワールド専門学校

| | |
|--|--|
| 科目名 動物看護学概論 | 教員名 柴野 梓 |
| 科目時間数 : 30 時間 | 授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習 |
| 必修・選択の別 : 必修・選択 | 配当学年 : 1 開講時期 : 前期・後期・集中 |
| <p>【授業の目的・ねらい】 専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する</p> | |
| <p>【愛玩動物看護師科ディプロマポリシーとの関連】 ① 基本的な動物看護師としての技術を獲得している 2. 動物の体の構造、仕組みが理解できる 3. 人や動物の気持ちを考えて、コミュニケーションが取れる 4. 働くという事への心構えが出来ている</p> | |
| <p>【授業全体の内容の概要】 獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学ぶ</p> <p>【授業における達成課題】 筆記試験において正答が60%以上、動物看護師試験合格</p> | |
| | 使用教材 |
| 学生用 | 動物看護コアテキスト |
| | 出版社 |
| | ファームプレス |
| <p>【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無</p> <p>【内 容】 動物病院にて動物看護師として勤務経験がある。</p> | |
| <p>【評価方法とその内容】 筆記試験におい正答が60%以上、授業出席率80%以上。</p> | |
| <p>【必要な予習等の内容】 毎回の授業の最後に、次回の授業内容について教科書を活用して予習を指示して実行する。</p> | |

| 科目名 | | 科目時間総数 | 教員名 |
|---------|---------------|--|------|
| 動物看護学概論 | | 30 | 柴野 梓 |
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | |
| 1 回 | 動物看護の基本となる概念 | 1) 動物看護の目的、概念について理解する | |
| 2 回 | 〃 | 〃 | |
| 3 回 | 〃 | 〃 | |
| 4 回 | 〃 | 2) 獣医療と動物看護の歴史について理解する | |
| 5 回 | 〃 | 〃 | |
| 6 回 | 〃 | 3) 獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領について理解する | |
| 7 回 | 〃 | 〃 | |
| 8 回 | 〃 | 4) 動物にとっての健康、福祉、QOL について理解する | |
| 9 回 | 〃 | 〃 | |
| 10 回 | 〃 | 〃 | |
| 11 回 | 〃 | 5) 動物病院における愛玩動物看護師の役割について理解する | |
| 12 回 | 〃 | 〃 | |
| 13 回 | 動物看護の提供体制 | 1) 社会における動物病院の役割について理解する | |
| 14 回 | 〃 | 〃 | |
| 15 回 | 〃 | 2) 一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携について理解する | |
| 16 回 | 〃 | 〃 | |
| 17 回 | 〃 | 3) インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務について理解する | |
| 18 回 | 〃 | 〃 | |
| 19 回 | 〃 | 4) 診療録（カルテ）と動物看護記録の作成、保存義務について理解する | |
| 20 回 | 〃 | 〃 | |
| 21 回 | 〃 | 5) 職場における労働安全衛生、危険の防止・対処法について理解する | |
| 22 回 | 〃 | 〃 | |
| 23 回 | 愛玩動物看護師の社会的立場 | 1) 愛玩動物看護師の職能団体について理解する | |
| 24 回 | 〃 | 〃 | |
| 25 回 | 〃 | 2) 愛玩動物看護師の資格制度と業務範囲、資格認定機関について理解する | |
| 26 回 | 〃 | 〃 | |
| 27 回 | 〃 | 3) 愛玩動物看護師に関するその他の代表的な組織・団体について理解する | |
| 28 回 | 〃 | 〃 | |
| 29 回 | 〃 | 4) 国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて理解する | |
| 30 回 | 〃 | 〃 | |

授業計画表

愛玩動物看護師 学科

盛岡ペットワールド専門学校

| | |
|---|--|
| 科目名 公衆衛生学 | 教員名 古濱 和久 |
| 科目時間数 : 60 時間 | 授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習 |
| 必修・選択の別 : 必修・選択 | 配当学年 : 1 開講時期 : 前期・後期・集中 |
| 【授業の目的・ねらい】 公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全に活かせる知識を身に付ける。 | |
| 【愛玩動物看護師科ディプロマポリシーとの関連】 ① 基本的な動物看護師としての技術を獲得している 2. 動物の体の構造、仕組みが理解できる 3. 人や動物の気持ちを考えて、コミュニケーションが取れる 4. 働くという事への心構えが出来ている | |
| 【授業全体の内容の概要】 公衆衛生は、人と動物の全てを対象とした分野であり、獣医療に関わる上でも重要な分野である。また、関連する環境要因と人の健康である疾病予防、病気の早期発見、健康維持および増進に役立つ総合多岐な学科目である。 | |
| 【授業における達成課題】 筆記試験で正答60%以上、動物看護師試験の合格。 | |
| | 使用教材 |
| 学生用 | 動物看護コアテキスト |
| | 出版社 |
| | ファームプレス |
| 【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 | |
| 【内 容】 動物病院で獣医師として勤務経験がある。 | |
| 【評価方法とその内容】 筆記試験において正答が60%以上、授業出席率80%以上。 | |
| 【必要な予習等の内容】 毎回の授業の最後に、次回の授業内容について教科書を活用して予習を指示して実行をする。 | |

| 科目名 | | 科目時間総数 | 時間 | 教員名 |
|-------|---------------|----------------------------|----|-------|
| 公衆衛生学 | | 60 | | 古濱 和久 |
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | | |
| 1回 | 公衆衛生の目的① | 公衆衛生の定義と目的、対象となる領域を理解する。 | | |
| 2回 | 公衆衛生の目的② | 基本的な活動分野、関連した活動を理解する。 | | |
| 3回 | 動物公衆衛生① | 人獣共通感染症の定義とその現状を理解する。 | | |
| 4回 | 動物公衆衛生② | 食品衛生、環境衛生、動物愛護・福祉・管理を理解する。 | | |
| 5回 | 動物公衆衛生③ | 食品衛生、環境衛生、動物愛護・福祉・管理を理解する。 | | |
| 6回 | 動物公衆衛生④ | 食品衛生、環境衛生、動物愛護・福祉・管理を理解する。 | | |
| 7回 | 動物公衆衛生⑤ | 食品衛生、環境衛生、動物愛護・福祉・管理を理解する。 | | |
| 8回 | 人獣共通感染症① | パスツレラ症を理解する。 | | |
| 9回 | 人獣共通感染症② | パスツレラ症を理解する。 | | |
| 10回 | 人獣共通感染症③ | ブルセラ症を理解する。 | | |
| 11回 | 人獣共通感染症④ | 猫ひっかき病を理解する。 | | |
| 12回 | 人獣共通感染症⑤ | サルモネラ症を理解する。 | | |
| 13回 | 人獣共通感染症⑥ | カプノサイトファーガ感染症を理解する。 | | |
| 14回 | 人獣共通感染症⑦ | コリネバクテリウム感染症を理解する。 | | |
| 15回 | 人獣共通感染症⑧ | カンピロバクター症を理解する。 | | |
| 16回 | 人獣共通感染症⑨ | Q熱を理解する。 | | |
| 17回 | 人獣共通感染症⑩ | オウム病を理解する。 | | |
| 18回 | 人獣共通感染症⑪ | 皮膚糸状菌症を理解する。 | | |
| 19回 | 人獣共通感染症⑫ | クリプトコッカス症の特性を理解する。 | | |
| 20回 | 人獣共通感染症⑬ | スポロトリウムを理解する。 | | |
| 21回 | 人獣共通感染症⑭ | 狂犬病を理解する。 | | |
| 22回 | 人獣共通感染症⑮ | インフルエンザを理解する。 | | |
| 23回 | 人獣共通感染症⑯ | SFTSを理解する。 | | |
| 24回 | 人獣共通感染症⑰ | トキソプラズマ症について理解する。 | | |
| 25回 | 人獣共通感染症⑱ | エキノコックス症について理解する。 | | |
| 26回 | 人獣共通感染症⑲ | トキソカラ症について理解する。 | | |
| 27回 | 人獣共通感染症⑳ | フィラリア症について理解する。 | | |
| 28回 | 人獣共通感染症21 | 瓜実条虫症について理解する。 | | |
| 29回 | 人獣共通感染症22 | マンソン裂頭条虫症について理解する。 | | |
| 30回 | 人獣共通感染症23 | ヒゼンダニ症について理解する。 | | |

| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 |
|---------|---------------|------------------------|
| 31 回 | 人獣共通感染症まとめ | 主な人獣共通感染症について復習により理解する |
| 32 回 | 人獣共通感染症まとめ | 主な人獣共通感染症について復習により理解する |
| 33 回 | 人獣共通感染症まとめ | 確認テストにより理解を深める |
| 34 回 | 減菌と消毒① | 減菌法について理解する |
| 35 回 | 減菌と消毒② | 火炎菌について理解する |
| 36 回 | 減菌と消毒③ | 乾熱法について理解する |
| 37 回 | 減菌と消毒④ | 高圧蒸気減菌について理解する |
| 38 回 | 減菌と消毒⑤ | 濾過減菌について理解する |
| 39 回 | 減菌と消毒⑥ | 減菌法について理解する |
| 40 回 | 減菌と消毒⑦ | ガス減菌について理解する |
| 41 回 | 減菌と消毒⑧ | 放射線減菌について理解する |
| 42 回 | 減菌と消毒⑨ | 紫外線減菌について理解する |
| 43 回 | 減菌と消毒⑩ | 煮沸減菌について理解する |
| 44 回 | 減菌と消毒⑪ | 蒸気消毒について理解する |
| 45 回 | 減菌と消毒⑫ | 消毒薬について理解する |
| 46 回 | 減菌と消毒⑬ | アルコール消毒薬について理解する |
| 47 回 | 減菌と消毒⑭ | フェノール消毒薬について理解する |
| 48 回 | 減菌と消毒⑮ | ハロゲン化合物について理解する |
| 49 回 | 減菌と消毒⑯ | クロルヘキシジンについて理解する |
| 50 回 | 減菌と消毒⑰ | 界面活性剤について理解する |
| 51 回 | 減菌と消毒⑱ | アウデヒドについて理解する |
| 52 回 | 減菌と消毒⑲ | 過酸化剤について理解する |
| 53 回 | 減菌と消毒⑳ | 色素類について理解する |
| 54 回 | 減菌と消毒まとめ | 確認テストにより理解を深める |
| 55 回 | 動物検疫 | 動物検疫について理解する |
| 56 回 | 衛生行政と関連法規① | 感染症法について理解する。 |
| 57 回 | 衛生行政と関連法規② | 検疫法について理解する。 |
| 58 回 | 衛生行政と関連法規③ | 狂犬病予防法を理解する。 |
| 59 回 | 衛生行政と関連法規④ | 家畜伝染病予防法を理解する。 |
| 60 回 | 衛生行政と関連法規まとめ | 確認テストにより理解を深める |

授業計画表

愛玩動物看護師

学科

盛岡ペットワールド専門学校

| | |
|---|--|
| 科目名 人間動物関係学 | 教員名 三上 祐太 |
| 科目時間数 : 30 時間 | 授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習 |
| 必修・選択の別 : 必修・選択 | 配当学年 : 1 開講時期 : 前期・後期・集中 |
| <p>【授業の目的・ねらい】 人間と暮らす動物たちは、どのように人と関係を築いたのかを理解し、現代の人と動物の関係を思慮する。また、HABをベースに、動物が人に与える影響を知り、動物を介する活動について理解を深める。動物を取り巻く現代の問題について、対処法を検討する。</p> | |
| <p>【愛玩動物看護師科ディプロマポリシーとの関連】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 基本的な動物看護師としての技術を獲得している 2. 動物の体の構造、仕組みが理解できる ③ 人や動物の気持ちを考えて、コミュニケーションが取れる 4. 働くという事への心構えが出来ている | |
| <p>【授業全体の内容の概要】 人とペットの歴史 動物の家畜化 動物が人に与える影響 人と動物の関係学の基盤 となる4つの研究 AAI活動の目的と開催する上での注意点 HABの理解 現代の問題(殺処分、飼育率、多頭飼育、動物虐待)について グリーンチムニーズについて</p> <p>【授業における達成課題】 筆記試験において正答が60%以上、動物看護師試験の合格</p> | |
| | 使用教材 |
| 出版社 | |
| 学生用 | 動物看護コアテキスト |
| | ファームプレス |
| <p>【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無</p> <p>【内 容】</p> | |
| <p>【評価方法とその内容】 筆記試験におい正答が60%以上、授業出席率80%以上</p> | |
| <p>【必要な予習等の内容】 毎回の授業の最後に、次回の授業内容について教科書を活用して予習を指示して実行する。</p> | |

| 科目名 | | 科目時間総数 | 教員名 |
|---------|------------------|--|-------|
| 人間動物関係学 | | 30 時間 | 三上 祐太 |
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | |
| 1 回 | イヌと人の関係について1 | イヌの起源を知る イヌの祖先、イヌを家畜化した時期と理由を答えることができる | |
| 2 回 | イヌと人の関係について2 | イヌを家畜化したことから何が起きたのか知る 家畜化とはなにか、イヌ科動物の共通点を答えることができる | |
| 3 回 | イヌと人の関係について3 | イヌの家畜化から社会的認知能力を知る イヌの社会的認知能力を答えることができる | |
| 4 回 | イヌと人の関係について4 | イヌの社会的認知能力と人の社会への適応性について イヌの適応能力を答えることができる | |
| 5 回 | イヌと人の関係について5 | ベリヤーエフ博士のキツネの実験で分かったこと 家畜化の変化を答えることができる | |
| 6 回 | 使役動物と人の関係について | 使役動物とは何か 補助犬の役割を答えることができる | |
| 7 回 | 振り返りグループワーク | イヌと人の関係がどのような歴史を経て築いたのか、家畜化することでの変化、使役動物についてグループワークにより理解を深める | |
| 8 回 | AATについて1 | AATとは何かを答えることができる | |
| 9 回 | AATについて2 | AIAHAIOとは何かを答えることができる | |
| 10 回 | AAIについて | AAA、AAE、AATとは何か、その目的を答えることができる | |
| 11 回 | AAT, AAI等についてまとめ | AIAHAIO、AAA、AAE、AATとは何か、その目的を答えることができる | |
| 12 回 | HABについて1 | HABとは何か答えることができる 自身の中で、HABを感じる事例を1つ知る | |
| 13 回 | HABについて2 | 動物が人に与える影響について、心理的、生理的、社会的の観点から3つずつ答えることができる | |
| 14 回 | HABについて3 | 日本におけるペットの飼育率の変化について答えることができる | |
| 15 回 | HABについて4 | 動物が人に与える効果や社会的知覚に及ぼす影響を3つ以上答えることができる | |
| 16 回 | HABについて5 | 動物虐待、多頭飼育がなぜ起こるのか、自分の意見を持つことができる | |
| 17 回 | HABについて6 | ペットを飼育することで得られる効果について、グループワークを行い、理解を深める | |
| 18 回 | HABについて7 | ペットが子供に与える影響について、3つ答えることができる | |
| 19 回 | HABについて8 | グリーンチムニーズとは、何か、その目的を答えることができる | |
| 20 回 | HABについて9 | グリーンチムニーズのようなものが、日本であるのか、なぜ、そうなっているのかを知る | |
| 21 回 | HABについて10 | HAB、AAE、AATの活動をビデオで観察しながら、どんな効果があるのかを知る | |
| 22 回 | HABについて11 | 動物が高齢者に与える効果について、心理的、生理的、社会的効果を2つずつ答えることができる | |
| 23 回 | HABについて12 | AAA活動をビデオで観察しながら、どんな効果があるのかを知る | |
| 24 回 | HABについて13 | 小児病棟におけるAAAの効果を知る | |
| 25 回 | HABについて14 | 自閉症や発達障害者に対する、AATの効果を知る | |
| 26 回 | HABについて15 | 非行少年や犯罪者に対する動物を介する更生プログラムを知る | |
| 27 回 | 野生動物と人の関係について | 人と野生動物が自然の中で、どのような関係性を持っているのかを理解する | |
| 28 回 | HAB等まとめ | HABとは何かを再度確認し、それぞれの活動の目的や効果を説明することができる | |
| 29 回 | 振り返りグループワーク | 人と動物の適切な関係を築くために、動物看護師として、どのように関わることができるかグループで答えることができる | |
| 30 回 | 振り返りグループワーク | 人と動物の適切な関係を築くために、動物看護師として、どのように関わることができるか個人で答えることができる | |

授業計画表

愛玩動物看護師

学科

盛岡ペットワールド専門学校

| | | |
|--|--|------------|
| 科目名 愛玩動物学 | 教員名 平元 尚人 | |
| 科目時間数 : 60 時間 | 授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ <input type="checkbox"/> 演習 ・ <input type="checkbox"/> 実習 | |
| 必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ <input type="checkbox"/> 選択 | 配当学年 : 1 開講時期 : <input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input type="checkbox"/> 後期 ・ <input type="checkbox"/> 集中 | |
| <p>【授業の目的・ねらい】 愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。</p> | | |
| <p>【愛玩動物看護師科ディプロマポリシーとの関連】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 基本的な動物看護師としての技術を獲得している ② 動物の体の構造、仕組みが理解できる 3. 人や動物の気持ちを考えて、コミュニケーションが取れる 4. 働くという事への心構えが出来ている | | |
| <p>【授業全体の内容の概要】 犬や猫を始めとする愛玩動物の歴史・品種・血統および飼養管理について、使役動物の歴史と福祉について学ぶ。</p> <p>【授業における達成課題】 筆記試験での正答が60%以上、動物看護師試験合格</p> | | |
| | 使用教材 | 出版社 |
| 学生用 | 動物看護コアテキスト | ファームプレス |
| 学生用 | 愛玩動物飼養管理士2級テキスト | 日本愛玩動物協会 |
| <p>【教員担当の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無</p> <p>【内 容】 ペットショップでの動物取扱責任者として勤務経験がある。畜産研究所で家畜人工授精師としての勤務経験がある。</p> | | |
| <p>【評価方法とその内容】 筆記試験での正答が60%以上、授業出席率80%以上</p> | | |
| <p>【必要な予習等の内容】 次回に授業に向けて教科書を一読など予習することを指示して、実行する。</p> | | |

| 科目名 | | 科目時間総数 | 教員名 |
|-------|---------------|---|-------|
| 愛玩動物学 | | 60 | 平元 尚人 |
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | |
| 1 | 歴史と品種 | 1) 犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ（品種に適したグルーミングなど）について理解する | |
| 2 | 〃 | 〃 | |
| 3 | 〃 | 〃 | |
| 4 | 〃 | 〃 | |
| 5 | 〃 | 2) 猫の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ（品種に適したグルーミングなど）について理解する | |
| 6 | 〃 | 〃 | |
| 7 | 〃 | 〃 | |
| 8 | 〃 | 〃 | |
| 9 | 〃 | 3) 代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態について理解する | |
| 10 | 〃 | 〃 | |
| 11 | 〃 | 〃 | |
| 12 | 〃 | 〃 | |
| 13 | 〃 | 4) 血統と血統書について理解する | |
| 14 | 〃 | 〃 | |
| 15 | 〃 | 〃 | |
| 16 | 〃 | 〃 | |
| 17 | 使役動物 | 1) 使役動物（犬、その他の動物）の歴史と福祉について理解する | |
| 18 | 〃 | 〃 | |
| 19 | 〃 | 〃 | |
| 20 | 〃 | 〃 | |
| 21 | 〃 | 2) 補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の歴史と現状について理解する | |
| 22 | 〃 | 〃 | |
| 23 | 〃 | 〃 | |
| 24 | 〃 | 〃 | |
| 25 | 〃 | 3) 補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の役割と育成、適性について理解する | |
| 26 | 〃 | 〃 | |
| 27 | 〃 | 〃 | |
| 28 | 〃 | 〃 | |
| 29 | 〃 | 4) その他の使役犬（災害救助犬、警察犬、麻薬探知犬、検疫探知犬など）の種類と特徴及び現状について理解する | |
| 30 | 〃 | 〃 | |

| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 |
|---------|---------------|---|
| 31 回 | 〃 | 〃 |
| 32 回 | 〃 | 〃 |
| 33 回 | 愛玩動物の飼養管理 | 1) 犬の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢、社会化訓練など）について理解する |
| 34 回 | 〃 | 〃 |
| 35 回 | 〃 | 〃 |
| 36 回 | 〃 | 〃 |
| 37 回 | 〃 | 2) 猫の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢など）について理解する |
| 38 回 | 〃 | 〃 |
| 39 回 | 〃 | 〃 |
| 40 回 | 〃 | 〃 |
| 41 回 | 〃 | 3) 愛玩鳥の適切な飼養管理方法（飼養環境、体調管理など）について理解する |
| 42 回 | 〃 | 〃 |
| 43 回 | 〃 | 〃 |
| 44 回 | 〃 | 〃 |
| 45 回 | 〃 | 4) 代表的なエキゾチック動物（ウサギ、ハムスターなど）の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理など）について理 |
| 46 回 | 〃 | 〃 |
| 47 回 | 〃 | 〃 |
| 48 回 | 〃 | 〃 |
| 49 回 | 動物の基本的な取扱い | 1) 動物を安全に散歩・運動・ふれあいさせることの意義について理解する |
| 50 回 | 〃 | 〃 |
| 51 回 | 〃 | 〃 |
| 52 回 | 〃 | 〃 |
| 53 回 | 〃 | 2) 基本的グルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など）の目的・方法について理解す |
| 54 回 | 〃 | 〃 |
| 55 回 | 〃 | 〃 |
| 56 回 | 〃 | 〃 |
| 57 回 | 〃 | 3) 適切な飼養環境やストレスの緩和方法について理解する |
| 58 回 | 〃 | 〃 |
| 59 回 | 〃 | 〃 |
| 60 回 | 〃 | 〃 |

授業計画表

愛玩動物看護師

学科

盛岡ペットワールド専門学校

| | |
|---|---|
| 科目名 動物内科看護学 | 教員名 柴野 梓 |
| 科目時間数 : 60 時間 | 授業の種類 : <input checked="" type="radio"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 |
| 必修・選択の別 : <input checked="" type="radio"/> 必修 ・ 選択 | 配当学年 : 1 開講時期 : <input checked="" type="radio"/> 前期 ・ 後期 ・ 集中 |
| 【授業の目的・ねらい】 動物看護のこころの在り方と、犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学ぶ。身体検査や採血、投薬、輸液、輸血について理解する。 | |
| 【愛玩動物看護師科ディプロマポリシーとの関連】 <input checked="" type="radio"/> ①. 基本的な動物看護師としての技術を獲得している 2. 動物の体の構造、仕組みが理解できる 3. 人や動物の気持ちを考えて、コミュニケーションが取れる 4. 働くという事への心構えが出来ている | |
| 【授業全体の内容の概要】 動物看護の概念と特徴、健康管理・診療補助の技術・検査・処置・投薬・輸液と輸血における知識と技術、種別における適切な接し方 | |
| 【授業における達成課題】 筆記試験での正答が60%以上、動物看護師試験合格。 | |
| | 使用教材 |
| 学生用 | 動物看護コアテキスト |
| 学生用 | 実習テキスト |
| | 出版社 |
| | ファームプレス |
| | エデュワードプレス |
| 【教員担当の実務経験の有無】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 | |
| 【内 容】 動物看護師として動物病院に勤務経験がある。 | |
| 【評価方法とその内容】 試験において正答が60%以上、授業出席率80%以上。 | |
| 【必要な予習等の内容】 次回の授業に向けて、教科書等で予習することを指示して、実行する。 | |

| 科目名 | | 科目時間総数 | 時間 | 教員名 |
|---------|---------------|--|----|------|
| 動物内科看護学 | | 60 | | 柴野 梓 |
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | | |
| 1 回 | 健康の保持・増進 | 1) 健康診断の内容と・目的について理解する | | |
| 2 回 | 〃 | 〃 | | |
| 3 回 | 診療補助に必要な技術 | 1) 診察における愛玩動物看護師の役割について理解する | | |
| 4 回 | 〃 | 〃 | | |
| 5 回 | 〃 | 2) 診察室の準備と衛生管理について理解する | | |
| 6 回 | 〃 | 〃 | | |
| 7 回 | 〃 | 3) 動物種ごとの適切な接し方について理解する | | |
| 8 回 | 〃 | 〃 | | |
| 9 回 | 〃 | 4) 保定の基本的な原理、目的、方法について理解する | | |
| 10 回 | 〃 | 〃 | | |
| 11 回 | 〃 | 5) 身体検査・アセスメント項目（体重、体温、脈拍、呼吸、意識レベル、粘膜色、股動脈圧、毛細血管再充満時間（CRT）、体表リンパ節など）について | | |
| 12 回 | 〃 | 〃 | | |
| 13 回 | 〃 | 〃 | | |
| 14 回 | 検査・処置に必要な技術 | 1) 注射器の取扱い及び管理方法について理解する | | |
| 15 回 | 〃 | 〃 | | |
| 16 回 | 〃 | 2) 採血の目的と方法について理解する | | |
| 17 回 | 〃 | 〃 | | |
| 18 回 | 〃 | 3) 採尿の目的と方法（穿刺、カテーテル導尿など）について理解する | | |
| 19 回 | 〃 | 〃 | | |
| 20 回 | 〃 | 4) 穿刺と・吸引について理解する | | |
| 21 回 | 〃 | 〃 | | |
| 22 回 | 〃 | 5) 各種カテーテル挿入について理解する | | |
| 23 回 | 〃 | 〃 | | |
| 24 回 | 〃 | 6) 酸素吸入について理解する | | |
| 25 回 | 〃 | 7) マイクロチップの挿入について理解する | | |
| 26 回 | 投薬に関わる技術 | 1) 薬の処方について理解する | | |
| 27 回 | 〃 | 〃 | | |
| 28 回 | 〃 | 2) 内服薬の使用法について理解する | | |
| 29 回 | 〃 | 〃 | | |
| 30 回 | 〃 | 3) 薬剤の注射法について理解する | | |

| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 |
|------|---------------|---------------------------|
| 31 回 | 〃 | 〃 |
| 32 回 | 〃 | 4) 外用薬の使用法、薬浴の実施法について理解する |
| 33 回 | 〃 | 〃 |
| 34 回 | 〃 | 5) 投薬前後の注意事項について理解する |
| 35 回 | 〃 | 〃 |
| 36 回 | 投薬に関わる技術 | 1) 薬の処方について理解する |
| 37 回 | 〃 | 〃 |
| 38 回 | 〃 | 2) 内服薬の使用法について理解する |
| 39 回 | 〃 | 〃 |
| 40 回 | 〃 | 3) 薬剤の注射法について理解する |
| 41 回 | 〃 | 〃 |
| 42 回 | 〃 | 4) 外用薬の使用法、薬浴の実施法について理解する |
| 43 回 | 〃 | 〃 |
| 44 回 | 〃 | 5) 投薬前後の注意事項について理解する |
| 45 回 | 〃 | 〃 |
| 46 回 | 輸液に関わる技術 | 1) 輸液の適応とリスクについて理解する |
| 47 回 | 〃 | 〃 |
| 48 回 | 〃 | 2) 輸液計画について理解する |
| 49 回 | 〃 | 3) 各種輸液剤の特性や適応について理解する |
| 50 回 | 〃 | 4) 輸液中のモニタリングについて理解する |
| 51 回 | 〃 | 〃 |
| 52 回 | 輸血に関わる技術 | 1) 輸血の適応とリスクについて理解する |
| 53 回 | 〃 | 〃 |
| 54 回 | 〃 | 2) 輸血計画について理解する |
| 55 回 | 〃 | 3) クロスマッチ試験と血液型について理解する |
| 56 回 | 〃 | 4) 各種輸血製剤の適応や特性について理解する |
| 57 回 | 〃 | 5) 輸血に関わる手技について理解する |
| 58 回 | 〃 | 〃 |
| 59 回 | 〃 | 6) 輸血による副反応について理解する |
| 60 回 | 〃 | 〃 |

| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 |
|------|---------------------|------------------------------------|
| 61 回 | 心電図と血圧に関わる技術 | 1) 心電図検査の目的と意義について理解する |
| 62 回 | 〃 | 2) 心電図検査の実施方法について理解する |
| 63 回 | 〃 | 3) 血圧測定の方法と意義、注意点について理解する |
| 64 回 | 〃 | 〃 |
| 65 回 | X線検査と CT/MRI に関わる技術 | 1) X線検査の目的と意義について理解する |
| 66 回 | 〃 | 2) 放射線防護について理解する |
| 67 回 | 〃 | 3) X線検査の実施方法と撮影体位について理解する |
| 68 回 | 〃 | 4) 造影検査と透視撮影について理解する |
| 69 回 | 〃 | 5) フィルムの現像とデジタルX線撮影について理解する |
| 70 回 | 〃 | 6) CT 及び MRI の概要について理解する |
| 71 回 | 超音波検査に関わる技術 | 1) 超音波検査の目的と実施方法、保定体位について理解する |
| 72 回 | 〃 | 2) Bモード、Mモード、ドップラー法について理解する |
| 73 回 | 〃 | 3) 超音波検査の保定方法について理解する |
| 74 回 | 内視鏡検査に関わる技術 | 1) 内視鏡検査の目的と意義について理解する |
| 75 回 | 〃 | 2) 内視鏡検査の実施方法、準備事項について理解する |
| 76 回 | 〃 | 3) スコープの洗浄・消毒における注意点について理解する |
| 77 回 | 神経学的検査に関わる技術 | 1) 姿勢反応と脊髄反射について理解する |
| 78 回 | 〃 | 2) 脳神経の検査法について理解する |
| 79 回 | 〃 | 3) その他の神経学的検査について理解する |
| 80 回 | 〃 | 4) 神経学的検査の評価記録法について理解する |
| 81 回 | 〃 | 5) 神経学的検査時の保定方について理解する |
| 82 回 | 眼科検査に関わる技術 | 1) シルマー試験、フルオレセイン試験の方法と意義について理解する |
| 83 回 | 〃 | 2) 眼圧測定の方法と意義について理解する |
| 84 回 | 〃 | 3) 眼底検査の方法と意義について理解する |
| 85 回 | 〃 | 4) その他の眼科検査について理解する |
| 86 回 | 〃 | 5) 眼科検査時の保定方について理解する |
| 87 回 | 皮膚と耳の検査に関わる技術 | 1) 皮膚病変の観察と記録法について理解する |
| 88 回 | 〃 | 2) 皮膚搔爬試験、スタンプ検査、被毛検査、皮膚生検について理解する |
| 89 回 | 〃 | 3) ウッド灯検査と真菌培養法について理解する |
| 90 回 | 〃 | 4) 外耳道の検査方法と意義、保定法について理解する |

授業計画表

愛玩動物看護師

学科

盛岡ペットワールド専門学校

| | | |
|---|---|-----------|
| 科目名 動物外科看護学 | 教員名 高坂 恵梨香 | |
| 科目時間数 : 20 時間 | 授業の種類 : <input type="checkbox"/> 講義 ・ <input type="checkbox"/> 演習 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 実習 | |
| 必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ <input type="checkbox"/> 選択 | 配当学年 : 1 開講時期 : 前期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期 ・ 集中 | |
| <p>【授業の目的・ねらい】 外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。</p> | | |
| <p>【愛玩動物看護師科ディプロマポリシーとの関連】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 基本的な動物看護師としての技術を獲得している 2. 動物の体の構造、仕組みが理解できる 3. 人や動物の気持ちを考えて、コミュニケーションが取れる 4. 働くという事への心構えが出来ている | | |
| <p>【授業全体の内容の概要】 手術関連業務、術前・術後の看護、麻酔、鎮痛、麻酔モニタリングについて知る</p> <p>【授業における達成課題】 筆記試験での正答60%以上、動物看護師試験合格</p> | | |
| | 使用教材 | 出版社 |
| 学生用 | 動物看護コアテキスト | ファームプレス |
| 学生用 | 実習テキスト | エデュワードプレス |
| <p>【教員担当の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無</p> <p>【内 容】 動物看護師として動物病院に勤務経験がある</p> | | |
| <p>【評価方法とその内容】 筆記試験において正答60%以上、授業出席率80%以上。</p> | | |
| <p>【必要な予習等の内容】 次回の授業に向けて教科書をによる予習を指示し実行する。</p> | | |

| 科目名 | | 科目時間総数 | 時間 | 教員名 |
|-------|---------------|---|----|--------|
| 動物外科学 | | 20 | | 高坂 恵梨香 |
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | | |
| 1 回 | 術前準備 | 1) 術前手続き（飼い主への説明、承諾書など）や術前検査について理解する | | |
| 2 回 | 〃 | 2) 無菌的処置の重要性について理解する | | |
| 3 回 | 〃 | 3) 手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌法について理解する | | |
| 4 回 | 〃 | 4) 手術器具の準備と滅菌法について理解する | | |
| 5 回 | 〃 | 5) 手術室の機器類（无影灯、電気メス本体など）、準備について理解する | | |
| 6 回 | 〃 | 6) 器械台の準備について理解する | | |
| 7 回 | 〃 | 7) 動物の適切なポジショニングについて理解する | | |
| 8 回 | 〃 | 8) 術野の消毒について理解する | | |
| 9 回 | 麻酔 | 1) 麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割について理解する | | |
| 10 回 | 〃 | 2) 麻酔リスクの評価（ASA 分類など）について理解する | | |
| 11 回 | 〃 | 3) 麻酔前投与（鎮静など）について理解する | | |
| 12 回 | 〃 | 4) 注射麻酔（局所麻酔含む）の手技について理解する | | |
| 13 回 | 〃 | 5) 吸入麻酔の手技について理解する | | |
| 14 回 | 〃 | 6) 導入時、覚醒時のリスクと対処法について理解する | | |
| 15 回 | 〃 | 7) 麻酔看視項目（心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、二酸化炭素など）の監視方法、意義について理解する | | |
| 16 回 | 〃 | 8) 麻酔記録の作成法について理解する | | |
| 17 回 | 術後管理 | 1) 麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて理解する | | |
| 18 回 | 〃 | 2) 疼痛管理の意義と方法について理解する | | |
| 19 回 | 〃 | 3) 術創管理と包帯法について理解する | | |
| 20 回 | 〃 | 4) 退院時の注意点と飼い主への説明事項について理解する | | |

授業計画表

愛玩動物看護師 学科

盛岡ペットワールド専門学校

| | |
|--|---|
| 科目名 動物栄養学 | 教員名 名本 圭太 |
| 科目時間数 : 30 時間 | 授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 |
| 必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択 | 配当学年 : 1 |
| 開講時期 : 前期・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期・集中 | |
| 【授業の目的・ねらい】 動物が家族の一員として位置づけられ、人と生活を共にする動物の「食」を取り巻く環境が大きく変わり、病気の動物を治療することが獣医師の目的であるが、むしろ病気の予防や病気にならない環境づくり、さらには健康を維持することが動物看護師の大きな役割と言える。 | |
| 【愛玩動物看護師科ディプロマポリシーとの関連】 ① 基本的な動物看護師としての技術を獲得している 2. 動物の体の構造、仕組みが理解できる 3. 人や動物の気持ちを考えて、コミュニケーションが取れる 4. 働くという事への心構えが出来ている | |
| 【授業全体の内容の概要】 動物の健康維持として必要な栄養素を学び、その基礎知識などを学び、様々なペットフードやパンフレット等に記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談や指導を行うための知識を習得する。また、疾患に対しての適切な栄養学により、食事指導をする。 | |
| 【授業における達成課題】 筆記試験で正答60%以上、動物看護師試験の合格。 | |
| | 使用教材 |
| 学生用 | 動物看護コアテキスト |
| | 出版社 |
| | ファームプレス |
| 【教員担当の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 | |
| 【内 容】 動物病院に獣医師としての勤務経験がある | |
| 【評価方法とその内容】 筆記試験において正答60%以上、授業出席率80%以上。 | |
| 【必要な予習等の内容】 毎回の授業の最後に、次回の授業内容について教科書を活用して予習を指示して実行する。 | |

| 科目名 | | 科目時間総数 | 教員名 |
|-------|----------------------|--|-------|
| 動物栄養学 | | 30 時間 | 名本 圭太 |
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | |
| 1 回 | 動物栄養学総論 | 6 大栄養素、犬猫の基礎栄養、カロリー計算、適切なフードについて理解する。 | |
| 2 回 | 基礎栄養学 | 6 大栄養素をとその働きについて理解する。栄養学は学問としてではなく、日常の知識であることを理解する。 | |
| 3 回 | 基礎栄養素 水 | 水の重要性について理解する。 | |
| 4 回 | 基礎栄養素 タンパク質① | タンパク質の働き、消化吸収について、アミノ酸などについて理解する。 | |
| 5 回 | 基礎栄養素 タンパク質② | 体内でのアミノ酸代謝を学び、窒素運動を理解する。 | |
| 6 回 | 基礎栄養素 炭水化物 | 炭水化物について理解する。 | |
| 7 回 | 基礎栄養素 脂肪 | 高エネルギー源としての脂肪の特徴とその長所と短所を理解する。 | |
| 8 回 | 基礎栄養素 ミネラル | ミネラルについて、カルシウムとリンのバランス、細胞内外のナトリウムとリンの関係などを理解する。 | |
| 9 回 | 〃 | 〃 | |
| 10 回 | 基礎栄養素 ビタミン | 微量必須有機物としてのビタミンの重要性などを理解する。 | |
| 11 回 | 犬猫の栄養要素の種差 | 犬と猫にそれぞれ必要な栄養素について、食事の違いを理解する。 | |
| 12 回 | 栄養基準について | 犬と猫の食性、嗜好、成功性、摂食行動について理解する。 AAFC、NRCなどについて理解する | |
| 13 回 | 復習 | 1～18回の内容を復習する。 | |
| 14 回 | ライフステージ別の栄養管理① | ライフステージ別の栄養が必要な理由について考え、理解する。犬猫の繁殖期、授乳期に必要な栄養管理について理解する。 | |
| 15 回 | ライフステージ別の栄養管理② | 子犬や子猫の成長期、離乳後に必要なエネルギー源などについて理解する。 | |
| 16 回 | ライフステージ別の栄養管理③ | 一般に成犬期・成猫期がいつまでか、加齢に伴う変化を理解した上で必要な栄養素は何か理解する。 | |
| 17 回 | ライフステージ別の栄養管理④ | 高齢の犬猫は食事内容を変化することに抵抗があるが、加齢にともなう体調変化にあわせて内容を考慮することを理解する。 | |
| 18 回 | ペットフードの表示の見方 | 市販のペットフードのパッケージやラベルにある情報を理解する。 | |
| 19 回 | BCS評価とカロリー計算の仕方① | BCSが何かを理解し、そのうえで与える食事がどれくらいのエネルギーをもつのかなどカロリー計算ができる。 | |
| 20 回 | BCS評価とカロリー計算の仕方② | 動物のエネルギー要求量には個体差があり、その状況に応じたカロリー計算ができる。 | |
| 21 回 | BCS評価とカロリー計算の仕方③ | 臨床の場合でも飼い主から相談があった時にでもカロリー計算ができる。 | |
| 22 回 | ペットフードの種類 | ペットフードには、機能別やライフステージ別などがあることやフードの与え方を理解する。飼い主にも説明できる。 | |
| 23 回 | 復習 | 今までの内容を復習する。 | |
| 24 回 | 各論：尿路結石/猫下部尿路疾患、腎泌尿器 | 療法食と疾患別による栄養特性を理解する。 | |
| 25 回 | 各論：心臓病 | 〃 | |
| 26 回 | 各論：消化器病、口腔疾患 | 〃 | |
| 27 回 | 各論：肝臓病、糖尿病 | 〃 | |
| 28 回 | 強制給餌と経管・静脈栄養法 | 強制給餌、経管栄養法（経鼻、食道、胃瘻チューブなど）、静脈栄養法（TPN、PPN）と特徴、方法について理解する。 | |
| 29 回 | 〃 | 〃 | |
| 30 回 | 復習 | 全回の復習をする。 | |

授業計画表

愛玩動物看護師 学科

盛岡ペットワールド専門学校

| | |
|---|---|
| 科目名 動物医療コミュニケーション | 教員名 高坂 恵梨香 |
| 科目時間数 : 15 時間 | 授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 演習 ・ 実習 |
| 必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 | 配当学年 : 1 開講時期 : <input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ 後期 ・ 集中 |
| 【授業の目的・ねらい】 ホスピタリティ精神を理解し飼い主からの信頼を得るために身だしなみの重要性を理解する。言葉使い・話し方・表情・立ち居振る舞いの接客時の基本を身に着けたコミュニケーション能力を身に着ける。 | |
| 【愛玩動物看護師科ディプロマポリシーとの関連】 ① 基本的な動物看護師としての技術を獲得している 2. 動物の体の構造、仕組みが理解できる ③ 人や動物の気持ちを考えて、コミュニケーションが取れる ④ 働くという事への心構えが出来ている | |
| 【授業全体の内容の概要】 日常健康管理などに関わる飼い主さんとのコミュニケーションの取り方、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ | |
| 【授業における達成課題】 筆記試験での正答60%以上、動物看護師試験合格 | |
| | 使用教材 |
| 学生用 | 動物看護コアテキスト |
| | 出版社 |
| | ファームプレス |
| 【教員担当の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 | |
| 【内 容】 動物看護師として動物病院に勤務経験がある | |
| 【評価方法とその内容】 筆記試験において正答60%以上、授業出席率80%以上 | |
| 【必要な予習等の内容】 次回の講義内容を担当者に確認をして、必要な内容について教科書等を活用して確認をすることを指示し実行をする | |

| 科目名 動物医療コミュニケーション | | 科目時間総数 15 | 時間 | 教員名 高坂 恵梨香 |
|----------------------|-------------------------|--|----|---------------|
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | | |
| 1 | 回 接遇とは | ホスピタリティとは何か。身だしなみの重要性。 | | |
| 2 | 回 ホスピタリティとは | シチュエーション別による配慮の必要性を理解する。TPOに応じた言動をわきまえる。相手に合わせた言葉使い。 | | |
| 3 | 回 社会人コミュニケーション能力の基礎① | 仕事を行う上で大切な「報告・連絡・相談」について理解する | | |
| 4 | 回 社会人コミュニケーション能力の基礎② | 病院の顔であることを意識した、初診時の診察受付。問診記入説明、記入後の処理案内。 | | |
| 5 | 回 飼い主のお迎え① | 初診・再診時の診察受付が自然に出来るよう反復トレーニング。 | | |
| 6 | 回 薬の説明 | 薬の種類・処方の仕方・数の確認・注意事項を適切に説明できる。説明と手の動きをあわせた一連の作業をスムーズに行う。 | | |
| 7 | 回 精算業務 | 迅速かつ丁寧な精算業務。清算書の作成、金額を明確に告げる。お金の扱いを知る。 | | |
| 8 | 回 電話応対① | 電話応対の基本を覚える | | |
| 9 | 回 電話応対② | 実際の動物病院での電話応対を想定して、ペアで実践する | | |
| 10 | 回 復習 | 今までの内容を振り返る | | |
| 11 | 回 外部応対 | 面会の約束のある方、無い方の受付の発話。マナーに従った名刺の受け取り、取次ぎ業務。 | | |
| 12 | 回 不快感情の飼い主対応 | 相手の話を落ち着いて聞き、内容を理解する。歩み寄る応対、初動対応の発話。 | | |
| 13 | 回 訪問と応対のマナー | ビジネスマナーの基本を知る。上座・下座の理解。社会の役職での上下関係を理解する。 | | |
| 14 | 回 人間心理を知る | 顧客とは。様々なケースでの顧客心理を考える。スタッフコミュニケーションを円滑に行う。相手の思考の特徴パターンを知る。 | | |
| 15 | 回 動物医療コミュニケーションまとめ | 筆記試験等で理解を深める。 | | |

授業計画表

愛玩動物看護師

学科

盛岡ペットワールド専門学校

| | | |
|--|--|----------|
| 科目名 動物内科看護学実習 | 教員名 柴野 梓 | |
| 科目時間数 : 60 時間 | 授業の種類 : <input type="radio"/> 講義 ・ 演習 ・ <input checked="" type="radio"/> 実習 | |
| 必修・選択の別 : <input checked="" type="radio"/> 必修 ・ 選択 | 配当学年 : 1 開講時期 : <input checked="" type="radio"/> 前期 ・ <input checked="" type="radio"/> 後期 ・ 集中 | |
| 【授業の目的・ねらい】 動物看護のこころの在り方と、犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学ぶ。身体検査や採血、投薬、輸液、輸血について実習を介して学ぶ。 | | |
| 【愛玩動物看護師科ディプロマポリシーとの関連】 ①. 基本的な動物看護師としての技術を獲得している 2. 動物の体の構造、仕組みが理解できる 3. 人や動物の気持ちを考えて、コミュニケーションが取れる 4. 働くという事への心構えが出来ている | | |
| 【授業全体の内容の概要】 動物看護の概念と特徴、健康管理・診療補助の技術・検査・処置・投薬・輸液と輸血における知識と技術、種別における適切な接し方 | | |
| 【授業における達成課題】 筆記試験での正答が60%以上、動物看護師試験合格。 | | |
| | 使用教材 | 出版社 |
| 学生用 | 動物看護コアテキスト | ファームプレス |
| 学生用 | 動物看護実習テキスト第2版 | interzoo |
| 学生用 | プリント | |
| 【教員担当の実務経験の有無】 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 | | |
| 【内 容】 動物看護師として動物病院に勤務経験がある。 | | |
| 【評価方法とその内容】 試験において正答が60%以上、授業出席率80%以上。 | | |
| 【必要な予習等の内容】 次回の授業に向けて、教科書等で予習することを指示して、実行する。 | | |

| 科目名 | | 科目時間総数 | 時間 | 教員名 |
|-----------|----------------------------|---|----|------|
| 動物内科看護学実習 | | 60 | | 柴野 梓 |
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | | |
| 1 回 | 動物看護 概論① | 動物看護の目的、動物看護師と獣医師の違いについて学ぶ | | |
| 2 回 | 動物看護 概論② | 動物医療における動物看護師の役割・意義、動物看護師としてのこころの在り方について学ぶ | | |
| 3 回 | 診療補助① 診察室の準備、衛生管理 | 診察における動物看護師の役割、診察室の準備、衛生管理の重要性について理解する | | |
| 4 回 | 診療補助② 動物との適切な接し方 | 診察における動物種ごとの適切な接し方・ハンドリングと保定法、その重要性を理解する。 | | |
| 5 回 | 〃 | 〃 | | |
| 6 回 | 〃 | 〃 | | |
| 7 回 | 診療補助② 確認テスト（筆記） | 動物の接し方とハンドリング、保定法について確認テストを行う | | |
| 8 回 | 診療補助② 確認テスト（実地） | 〃 | | |
| 9 回 | 診療補助③一般身体検査、バイタルチェック | 一般身体検査・バイタルサインと観察項目（体重、体温、脈拍、呼吸、意識レベル、粘膜色、股動脈圧、毛細血管再充填時間(CRT)、体表リンパ節など）について理解する | | |
| 10 回 | 〃 | 〃 | | |
| 11 回 | 〃 | 〃 | | |
| 12 回 | 診療補助③ 確認テスト（筆記） | 動物看護の概論、診療補助についての確認テストを行う | | |
| 13 回 | 診療補助③ 確認テスト（実地） | 〃 | | |
| 14 回 | 動物の健康管理①各ライフステージにおける看護の重要性 | 動物看護は一生必要であり、全てのライフステージにおける健康な時・疾病に罹患している時の両方に必要であることを理解する | | |
| 15 回 | 〃 | 〃 | | |
| 16 回 | 動物の健康管理② 健康な動物への看護 | 健康な動物に行う看護について学ぶ | | |
| 17 回 | 〃 | 〃 | | |
| 18 回 | 動物の健康管理③ 罹患動物への看護 | 疾病に罹患している動物に行う看護について学ぶ | | |
| 19 回 | 〃 | 〃 | | |
| 20 回 | 動物の健康管理④ 確認テスト | 動物の健康管理についての再確認テストを行う | | |
| 21 回 | 検査・処置① 概論 | 動物病院で頻繁に行う検査・処置内容の知識、技術について学ぶ | | |
| 22 回 | 検査・処置② 血液検査・採血 | 血液検査の種類、血液検査に使用するシリンジの取り扱いや管理方法について、採血の目的や方法について理解する | | |
| 23 回 | 〃 | 〃 | | |
| 24 回 | 〃 | 〃 | | |
| 25 回 | 〃 血液検査 確認テスト（筆記） | 血液検査・採血において確認テストを実施する | | |
| 26 回 | 〃 血液検査 確認テスト（実地） | 血液検査・採血において確認テストを実施する | | |
| 27 回 | 検査・処置③ 尿検査・採尿 | 尿検査の意義・目的、検査内容と方法、採尿方法について理解する | | |
| 28 回 | 〃 | 〃 | | |
| 29 回 | 〃 | 〃 | | |
| 30 回 | 検査・処置 尿検査 確認テスト（筆記） | 尿検査・採尿について確認テストを実施する | | |

| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 |
|------|-------------------------|---|
| 31 回 | 検査・処置 尿検査 確認テスト (実地) | 〃 |
| 32 回 | 検査・処置④ 便検査 | 便検査の意義・目的、検査内容と方法について理解する |
| 33 回 | 〃 | 〃 |
| 34 回 | 検査・処置 便検査 確認テスト (筆記) | 便検査についての確認テストを実施する |
| 35 回 | 検査・処置 便検査 確認テスト (実地) | 〃 |
| 36 回 | 検査・処置⑤ 点滴について | 点滴の意義・目的、種類と用途を理解する |
| 37 回 | 〃 | 〃 |
| 38 回 | 検査処置⑥ まとめ (筆記) | 検査・処置についての確認テストを行う |
| 39 回 | 検査処置⑥ まとめ (実地) | 検査・処置についての確認テストを行う |
| 40 回 | 投薬① 概要 | 薬物の処方、投与方法と特徴、体内での薬物のプロセスを学ぶ。薬剤の投薬前と後の注意点について理解する。 |
| 41 回 | 〃 | 〃 |
| 42 回 | 投薬② 経口・静脈・皮下 | 経口投与・静脈投与・皮下注射の方法と注意点、計算方法について学ぶ |
| 43 回 | 〃 | 〃 |
| 44 回 | 投薬③ その他 | その他の投与方法 (筋肉注射・皮内注射、腹腔内注射、座剤) と注意点について学ぶ |
| 45 回 | 投薬④ 外用薬、薬浴 | 外用薬の投薬方法と薬浴に使う薬剤と使用法について理解する |
| 46 回 | 〃 | 〃 |
| 47 回 | 投薬 確認テスト (筆記) | 投薬についての再確認テストを行う |
| 48 回 | 投薬 確認テスト (実地) | 〃 |
| 49 回 | 輸液① 概要 | 輸液の目的と方法、輸液製剤の種類と特徴について理解する |
| 50 回 | 〃 | 〃 |
| 51 回 | 輸液② 輸液量、輸液ポンプ | 輸液量の計算と輸液ポンプの使用方法を理解する |
| 52 回 | 〃 | 〃 |
| 53 回 | 〃 | 〃 |
| 54 回 | 輸液③ モニタリング | 輸液中のモニタリング (動物の変化・血管留置部分) と輸液中に起こりやすいトラブル (閉塞・滴下異常、空液) について理解する |
| 55 回 | 〃 | 〃 |
| 56 回 | 輸血① 概要 | 輸血の目的と注意点、輸血製剤の種類と特性について理解する |
| 57 回 | 輸血② 血液型、クロスマッチ | 血液型とクロスマッチ試験について理解する |
| 58 回 | 〃 | 〃 |
| 59 回 | 輸血③ モニタリング | 輸血中のモニタリングと輸血による副反応を理解する |
| 60 回 | 総合テスト | 動物内科看護学において筆記試験を行い理解度を確認する |

授業計画表

愛玩動物看護師

学科

盛岡ペットワールド専門学校

| | | |
|---|--------------------------------------|---------|
| 科目名 動物外科看護学実習 | 教員名 高坂 恵梨香 | |
| 科目時間数： 30 時間 | 授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習 | |
| 必修・選択の別： 必修・選択 | 配当学年： 1 開講時期： 前期・後期・集中 | |
| 【授業の目的・ねらい】 動物への外科的治療を補助するために必要な基礎知識を学び、その知識に裏付けられた動物看護技術を修得する | | |
| 【愛玩動物看護師科ディプロマポリシーとの関連】 ① 基本的な動物看護師としての技術を獲得している 2. 動物の体の構造、仕組みが理解できる 3. 人や動物の気持ちを考えて、コミュニケーションが取れる 4. 働くという事への心構えが出来ている | | |
| 【授業全体の内容の概要】 手術関連業務、術前・術後の看護、麻酔、鎮痛、麻酔モニタリングについて知る | | |
| 【授業における達成課題】 筆記試験での正答60%以上、動物看護師試験合格 | | |
| | 使用教材 | 出版社 |
| 学生用 | 動物看護コアテキスト | ファームプレス |
| 【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無 | | |
| 【内 容】 動物看護師として動物病院に勤務経験がある | | |
| 【評価方法とその内容】 筆記試験において正答60%以上、授業出席率80%以上。 | | |
| 【必要な予習等の内容】 次回の授業に向けて教科書をによる予習を指示し実行する。 | | |

| 科目名 | | 科目時間総数 | 教員名 |
|-----------|---------------|--|--------|
| 動物外科看護学実習 | | 30 時間 | 高坂 恵梨香 |
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | |
| 1 回 | 手術補助 | 周術期看護とは何か理解する | |
| 2 回 | 器具・器材の準備 1 | 一般的な手術器具の名称と特徴を理解し適切に扱えるようになる。また手入れ方法と維持管理について学ぶ | |
| 3 回 | 器具・器材の準備 2 | 縫合糸、縫合針の種類や特徴を理解し、使用部位や目的に合った縫合材料を準備できる | |
| 4 回 | 器具・器材の準備 3 | ドレープの種類を理解し、適切に準備ができる | |
| 5 回 | 器具・器材の準備 4 | 電気メスの種類、使用方法について理解する | |
| 6 回 | 器具・器材の準備 5 | 用途に合わせた滅菌方法と管理について理解する | |
| 7 回 | 避妊・去勢手術 | 卵巣・子宮全摘出術、去勢手術の手技や切開部位を理解する | |
| 8 回 | 麻酔前評価 | 麻酔前に動物を評価する目的とは何か理解する | |
| 9 回 | 手術補助まとめ | 避妊・去勢手術を想定して器具の準備を行い理解を深める | |
| 10 回 | 術者の準備 | 日常～手術当日までの備品の準備、管理について理解する | |
| 11 回 | 術者の準備 | 手術前の適切な手洗い方法について理解する | |
| 12 回 | 術者の準備 | 無菌的にガウンの着用と手袋の装着を行う | |
| 13 回 | 動物の準備 | 毛刈りの意義、適切な消毒方法について理解する | |
| 14 回 | 動物の準備 | ドレープのかけ方を実践する | |
| 15 回 | 血管確保 | 血管確保の準備と手順を実践する | |
| 16 回 | 気道確保 | 気道確保の準備と手順を実践する | |
| 17 回 | 輸液管理 | 輸液の準備と管理を実践する | |
| 18 回 | 麻酔とは | 全身麻酔と局所麻酔について理解する | |
| 19 回 | 麻酔薬の作用 | 麻酔薬の作用・代謝・排泄について理解する | |
| 20 回 | 麻酔前投与薬 | 麻酔前投与薬の種類・薬理効果を理解する | |
| 21 回 | 鎮痛薬 | 鎮痛薬の種類・薬理効果を理解する | |
| 22 回 | 麻酔導入 | 麻酔導入の種類・薬理効果を理解する | |
| 23 回 | 吸入麻酔薬 | 吸入麻酔薬の種類・薬理効果を理解する | |
| 24 回 | 酸素化 | 酸素化の意義、効果的な酸素のかがせ方を理解する | |
| 25 回 | 麻酔器の構造と管理 | 麻酔器の準備・管理を実践する | |
| 26 回 | モニター機器の準備と管理 | 心電図モニターの準備・管理を実践する | |
| 27 回 | モニター機器の準備と管理 | 血圧モニターの準備・管理を実践する | |
| 28 回 | まとめ | 手術の一連の流れを実践する | |
| 29 回 | 麻酔のモニター | 気道のモニターについて理解する | |
| 30 回 | 麻酔のモニター | 換気のモニターについて理解する | |

授業計画表

愛玩動物看護師 学科

盛岡ペットワールド専門学校

| | |
|---|--|
| 科目名 動物看護総合実習 | 教員名 柴野 梓 |
| 科目時間数 : 30 時間 | 授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習 |
| 必修・選択の別 : 必修・選択 | 配当学年 : 1 開講時期 : 前期・後期・集中 |
| <p>【授業の目的・ねらい】 修学した知識と技術が実際の動物関連分野でどのように活かされているかを動物病院などで体験、実習をする。</p> | |
| <p>【愛玩動物看護師科ディプロマポリシーとの関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 基本的な動物看護師としての技術を獲得している ② 動物の体の構造、仕組みが理解できる ③ 人や動物の気持ちを考えて、コミュニケーションが取れる ④ 働くという事への心構えが出来ている | |
| <p>【授業全体の内容の概要】 インターンシップ（職場実習）として、動物病院などの施設構造や機能を理解することで、実践的な動物関連の仕事内容と専門知識及び倫理観を習得する。また、インターンシップ先への実習依頼については、学生が行うことでビジネスマナーを身に付ける。</p> <p>【授業における達成課題】 動物関連業界への就職を実現するだけでなく、業界での活躍を目指す。</p> | |
| | 使用教材 |
| 学生用 | 実践ビジネスマナー |
| | 出版社 |
| | ウイネット |
| <p>【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ 無</p> <p>【内 容】 動物病院にて動物看護師として勤務</p> | |
| <p>【評価方法とその内容】 実習評価表（実習先記入）、インターンシップアンケート（実習先記入）、実習日誌・実習日程（学生、実習先記入）、インターンシップレポート・振り返りシート（学生記入）</p> | |
| <p>【必要な予習等の内容】 翌日の実習内容を担当者に確認をして、必要な内容について教科書等を活用して確認をする。</p> | |

| 科目名 | | 科目時間総数 | 教員名 |
|----------|--------------------|---|------|
| 動物看護総合実習 | | 30 時間 | 柴野 梓 |
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | |
| 1 回 | インターンシップの実施の説明 | インターンシップの目的や取り組みについて理解する。 | |
| 2 回 | インターンシップ実施報告会① | 複数名の2年生の学生より、インターンシップの実施報告を聞き取り組みについての理解を深める。 | |
| 3 回 | インターンシップ実施報告会② | 複数名の2年生の学生より、インターンシップの実施報告を聞き取り組みについての理解を深める。 | |
| 4 回 | インターンシップ実施報告会③ | 複数名の2年生の学生より、インターンシップの実施報告を聞き取り組みについての理解を深める。 | |
| 5 回 | ビジネスマナーの基本① | インターンシップに向けて、ビジネスマナーの基本を理解する。 | |
| 6 回 | ビジネスマナーの基本② | インターンシップに向けて、ビジネスマナーの基本を理解する。 | |
| 7 回 | インターンシップ予定先への受入交渉① | インターンシップ予定先への受入交渉（電話）に向けて、電話対応マナーを理解する。 | |
| 8 回 | インターンシップ予定先への受入交渉② | インターンシップ予定先への受入交渉（電話）に向けて、電話対応マナーを理解する。 | |
| 9 回 | インターンシップ予定先への受入交渉③ | インターンシップ予定先への受入について、電話で交渉をする。 | |
| 10 回 | インターンシップの実施の目標設定① | インターンシップの目的や取り組みについて理解し上で、実習先や目標を設定する。 | |
| 11 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 12 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 13 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 14 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 15 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 16 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 17 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 18 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 19 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 20 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 21 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 22 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 23 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 24 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 25 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 26 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 27 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 28 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 29 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |
| 30 回 | インターンシップ（職場実習） | 職場での実習により、具体的な仕事内容を理解する。 | |

授業計画表

愛玩動物看護師 学科

盛岡ペットワールド専門学校

| | |
|--|---|
| 科目名 動物形態機能学実習 | 教員名 谷口 和美 |
| 科目時間数 : 30 時間 | 授業の種類 : <u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習 |
| 必修・選択の別 : <u>必修</u> ・選択 | 配当学年 : 1 開講時期 : 前期・ <u>後期</u> ・集中 |
| 【授業の目的・ねらい】 動物の身体の形態と機能を学ぶ。 | |
| 【愛玩動物看護師科ディプロマポリシーとの関連】 ① 基本的な動物看護師としての技術を獲得している ② 動物の体の構造、仕組みが理解できる 3. 人や動物の気持ちを考えて、コミュニケーションが取れる 4. 働くという事への心構えが出来ている | |
| 【授業全体の内容の概要】 動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。 | |
| 【授業における達成課題】 筆記試験において正答率60%以上、動物看護師試験の合格。 | |
| | 使用教材 |
| 学生用 | 動物看護コアテキスト |
| | 出版社 |
| | ファームプレス |
| 【教員担当の実務経験の有無】 <u>有</u> ・ 無 | |
| 【内 容】 獣医師として動物病院に勤務経験がある。 | |
| 【評価方法とその内容】 筆記試験において正答率60%以上、授業出席率80%以上。 | |
| 【必要な予習等の内容】 毎回の授業の最後に、次回の授業内容について教科書を活用して予習を指示して実行する。 | |

| 科目名 | | 科目時間総数 | 教員名 |
|-----------|---------------|--------------------------------|-------|
| 動物形態機能学実習 | | 30 時間 | 谷口 和美 |
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | |
| 1 回 | 運動器 | 骨格標本を用いて、代表的な骨を観察し、名称と特徴を理解する。 | |
| 2 回 | 運動器 | 骨格標本を用いて、代表的な骨を観察し、名称と特徴を理解する。 | |
| 3 回 | 運動器 | 骨格標本を用いて、代表的な骨を観察し、名称と特徴を理解する。 | |
| 4 回 | 運動器 | 代表的な関節の名称と構造、機能を理解する。 | |
| 5 回 | 運動器 | 代表的な関節の名称と構造、機能を理解する。 | |
| 6 回 | 運動器 | 代表的な関節の名称と構造、機能を理解する。 | |
| 7 回 | 運動器 | 代表的な骨格筋の名称と構造、機能を理解する。 | |
| 8 回 | 運動器 | 代表的な骨格筋の名称と構造、機能を理解する。 | |
| 9 回 | 運動器 | 代表的な骨格筋の名称と構造、機能を理解する。 | |
| 10 回 | 内臓器官 | 模型などを用いて、主要な内臓器官の配置を理解する。 | |
| 11 回 | 内臓器官 | 模型などを用いて、主要な内臓器官の配置を理解する。 | |
| 12 回 | 内臓器官 | 模型などを用いて、主要な内臓器官の配置を理解する。 | |
| 13 回 | 内臓器官 | 生殖器の雌雄差を理解する。 | |
| 14 回 | 内臓器官 | 生殖器の雌雄差を理解する。 | |
| 15 回 | 顕微鏡の取り扱い | 顕微鏡の各部位の名称、鏡検条件について理解する。 | |
| 16 回 | 顕微鏡の取り扱い | 顕微鏡の各部位の名称、鏡検条件について理解する。 | |
| 17 回 | 顕微鏡の取り扱い | 顕微鏡の各部位の名称、鏡検条件について理解する。 | |
| 18 回 | 顕微鏡の取り扱い | 顕微鏡の適切な操作法を修得する。 | |
| 19 回 | 顕微鏡の取り扱い | 顕微鏡の適切な操作法を修得する。 | |
| 20 回 | 顕微鏡の取り扱い | 顕微鏡の適切な操作法を修得する。 | |
| 21 回 | 顕微鏡の取り扱い | 顕微鏡の適切な管理法を修得する。 | |
| 22 回 | 顕微鏡の取り扱い | 顕微鏡の適切な管理法を修得する。 | |
| 23 回 | 顕微鏡の取り扱い | 顕微鏡の適切な管理法を修得する。 | |
| 24 回 | 組織像の観察 | 主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴を理解する。 | |
| 25 回 | 組織像の観察 | 主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴を理解する。 | |
| 26 回 | 組織像の観察 | 主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴を理解する。 | |
| 27 回 | 組織像の観察 | 組織像に見られる代表的な構造について機能と関係を理解する。 | |
| 28 回 | 組織像の観察 | 組織像に見られる代表的な構造について機能と関係を理解する。 | |
| 29 回 | 組織像の観察 | 組織像に見られる代表的な構造について機能と関係を理解する。 | |
| 30 回 | まとめ | 今までの内容を理解し、修得する。 | |

授業計画表

愛玩動物看護師科

学科

盛岡ペットワールド専門学校

| | |
|--|--|
| 科目名 動物愛護・適正飼養実習 | 教員名 市村 香織 |
| 科目時間数 : 30 時間 | 授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ <u>実習</u> |
| 必修・選択の別 : <u>必修</u> ・選択 | 担当学年 : 1 開講時期 : <u>前期</u> ・後期・集中 |
| 【授業の目的・ねらい】 学校動物の飼育の中から、飼い主の気持ちを知るとともに、適切な動物の飼育の仕方や適切な扱い方を身に付ける。 他者とコミュニケーションを取りながら、作業を進めるために必要な能力を身に付ける。 | |
| 【愛玩動物看護師科ディプロマポリシーとの関連】 ① 基本的な動物看護師としての技術を獲得している ② 動物の体の構造、仕組みが理解できる ③ 人や動物の気持ちを考えて、コミュニケーションが取れる ④ 働くという事への心構えが出来ている | |
| 【授業全体の内容の概要】 学校犬、猫、小動物の飼育法について、上級学生から学びながら、同学年の学生同士で学校動物の飼育管理を行う。 | |
| 【授業における達成課題】 学校にいる動物について基本的な飼育ができる。 | |
| | 使用教材 |
| 学生用 | プリント等 |
| 【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ <u>無</u> | |
| 【内 容】 | |
| 【評価方法とその内容】 授業出席率80%以上。 | |
| 【必要な予習等の内容】 配布資料（プリント等）の復習をして、次回の授業に参加するように指示をして実行する。 | |

| 科目名 動物愛護・適正飼養実習 | | 科目時間総数 30 時間 | 教員名 市村 香織 |
|--------------------|---------------|--|--------------|
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | |
| 1 回 | 服装 | 動物を飼育する際の服装について、理解する。 | |
| 2 回 | 掃除 | 床の拭き方、ぞうきんの絞り方、ほうきの扱いかたを学ぶ。 | |
| 3 回 | 消毒方法 | 適切な消毒方法を理解する。 | |
| 4 回 | イヌの飼育 | イヌとの接し方を理解し、イヌとあいさつし、警戒されない方法を理解する。 | |
| 5 回 | ネコの飼育 | ネコとの接し方を理解し、ネコとあいさつし、警戒されない方法を理解しする。 | |
| 6 回 | 小動物の飼育 | 小動物との接し方を理解し、小動物とあいさつし、警戒されない方法を理解する。 | |
| 7 回 | イヌの飼育 | イヌの飼育に必要となる道具を理解する。 | |
| 8 回 | イヌの飼育 | 犬の飼育に必要となる道具を理解し、つかいこなせるようになる。 | |
| 9 回 | イヌの飼育 | 犬の飼育に必要となる道具を理解し、つかいこなせるようになる。 | |
| 10 回 | ネコの飼育 | ネコの飼育に必要となる道具を理解する。 | |
| 11 回 | ネコの飼育 | ネコの飼育に必要となる道具を理解し、つかいこなせるようになる。 | |
| 12 回 | ネコの飼育 | ネコの飼育に必要となる道具を理解し、つかいこなせるようになる。 | |
| 13 回 | 小動物の飼育 | 小動物の飼育に必要となる道具を理解する。 | |
| 14 回 | 小動物の飼育 | 小動物の飼育に必要となる道具を理解し、つかいこなせるようになる。 | |
| 15 回 | 小動物の飼育 | 小動物の飼育に必要となる道具を理解し、つかいこなせるようになる。 | |
| 16 回 | イヌの飼育 | イヌの体の構造を理解する。 | |
| 17 回 | イヌの飼育 | イヌの体の構造を理解し、実際の犬を観察し。体がどのように動くかを知る。 | |
| 18 回 | ネコの飼育 | ネコの体の構造を理解する。 | |
| 19 回 | ネコの飼育 | ネコの体の構造を理解し、実際の犬を観察し。体がどのように動くかを知る。 | |
| 20 回 | 小動物の飼育 | 小動物の体の構造を理解する。 | |
| 21 回 | 小動物の飼育 | 小動物の体の構造を理解し、実際の犬を観察し。体がどのように動くかを知る。 | |
| 22 回 | イヌの飼育 | イヌの体の構造を理解し、抱っこをする、保定する方法を身に付ける。 | |
| 23 回 | ネコの飼育 | ネコの体の構造を理解し、抱っこをする、保定する方法を身に付ける。 | |
| 24 回 | 小動物の飼育 | 小動物の体の構造を理解し、抱っこをする、保定する方法を身に付ける。 | |
| 25 回 | イヌの飼育 | イヌの食事について理解を深める。食事の与え方を学び、実際の犬の飼育に使用する | |
| 26 回 | ネコの飼育 | ネコの食事について理解を深める。食事の与え方を学び、実際の猫の飼育に使用する | |
| 27 回 | 小動物の飼育 | 小動物の食事について理解を深める。食事の与え方を学び、実際の飼育に使用する | |
| 28 回 | イヌの飼育 | 犬のお世話を行う | |
| 29 回 | ネコの飼育 | 猫のお世話を行う | |
| 30 回 | 小動物の飼育 | 小動物のお世話を行う | |

授業計画表

愛玩動物看護師

学科

盛岡ペットワールド専門学校

| | |
|---|---|
| 科目名 ペットビジネス教養Ⅰ (しつけトレーニング実習) | 教員名 三上 祐太 |
| 科目時間数 : 30 時間 | 授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 実習 |
| 必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 | 配当学年 : 1 開講時期 : <input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ 後期 ・ 集中 |
| 【授業の目的・ねらい】 イヌを安全に管理する技術と知識を身につける 犬の学習理論を理解し、普段の生活に活かす。 | |
| 【愛玩動物看護師科ディプロマポリシーとの関連】 ① 基本的な動物看護師としての技術を獲得している ② 動物の体の構造、仕組みが理解できる ③ 人や動物の気持ちを考えて、コミュニケーションが取れる 4. 働くという事への心構えが出来ている | |
| 【授業全体の内容の概要】 イヌのコントロール、観察およびボディランゲージを読みとり、現状を把握する。犬がトラブルに巻き込まれないための管理。犬の学習理論を理解し、普段の生活に取り入れる。 | |
| 【授業における達成課題】 実技・筆記試験で正答が60%以上。 | |
| | 使用教材 |
| 学生用 | プリント等 |
| 【教員担当の実務経験の有無】 有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無 | |
| 【内 容】 | |
| 【評価方法とその内容】 筆記試験で正答60%以上、授業出席率80%以上。 | |
| 【必要な予習等の内容】 配布資料「(プリント等)の復習をして、次回の授業に参加するように指示をして実行する。 | |

| 科目名 ペットビジネス教養Ⅰ(口しつけトレーニング実習) | | 科目時間総数 30 | 時間 | 教員名 三上 祐太 |
|---------------------------------|---------------|--|----|--------------|
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | | |
| 1 | 適切な服装・身だしなみ | 犬と関わる時の服装について理解する。なぜ適切なのか、不適切なのかを説明できる。 | | |
| 2 | 犬との接し方 | 犬と正しく接するポイントを理解し、実際の犬とあいさつをする。 | | |
| 3 | 犬の管理 | 犬の観察の仕方を理解し、犬の状態を知るポイントを説明できる。 | | |
| 4 | 犬の管理 | 犬を観察し、行動やボディランゲージの変化を3つ以上答えることができる。 | | |
| 5 | 犬の管理 | リードの間違った持ち方を知る。リードの持ち方2種類の方法を身に付ける。 | | |
| 6 | 犬の管理 | カラーの装着の仕方を学ぶ。カラーの調節の仕方を人形を使って出来るようになる。 | | |
| 7 | 犬の管理 | 実際の犬と一緒に動きながら、リードをコントロールできるようになる。 | | |
| 8 | 犬の管理 | 犬へ接近し、抑える方法を実際の犬でできるようになる。 | | |
| 9 | 犬の管理 | 2種類の抱っこの仕方を学び、実践できるようになる。 | | |
| 10 | 犬の管理 | クレート、バリケン、ケージ、ソフトケージの違いを知り、メリットをデメリットを学ぶ。 | | |
| 11 | 犬の管理 | クレートの入れ方、出し方について、人形を使ってできるようになる。 | | |
| 12 | 犬の管理 | 犬の行動管理について、犬の行動を予測し、人が犬の行動を管理する意識を人形を使って身に付ける。 | | |
| 13 | 犬の管理 | 犬の状態を観察し、犬の行動を予測することができ、行動を管理することができる | | |
| 14 | 犬の管理 | 犬の状態を観察し、犬の行動を予測することができ、行動を管理することができる | | |
| 15 | 犬の管理 | 犬のボディチェックの仕方を理解する。ハズバンドリートレーニングについて知る | | |
| 16 | 犬の管理 | 犬を適切にボディチェックし、異常を発見することができる | | |
| 17 | 犬の学習 | 犬の本能的行動を理解する。 | | |
| 18 | 犬の行動学 | 犬の性格を形成している要因を2つ答えることができる。社会性の重要性、時期を答えることができる | | |
| 19 | 犬の行動学 | 犬のあいさつ行動を理解する。パーソナルスペース、社会的距離、境界線について説明できる。 | | |
| 20 | 犬の行動学 | 犬の対立行動を理解する。社会的闘争の行動パターンを説明できる。 | | |
| 21 | 犬の学習理論 | 古典的条件付けを理解し、イヌが日常的にどのように学習をしているか推測する。 | | |
| 22 | 犬の学習理論 | オペラント条件付けとはどのような学習方法であり、誰が提唱したかを理解する。 | | |
| 23 | 犬の学習理論 | 三項随伴性とは何か理解し、行動がどのように発現し、学習していくかを理解する。 | | |
| 24 | 犬のトレーニング | 古典的条件付けを使い、名前の教え方を学ぶ | | |
| 25 | 犬のトレーニング | 古典的条件付けを使い、犬との関係の築き方を学ぶ。 | | |
| 26 | 犬のトレーニング | 誘導法について学び、犬が不快になりにくい、犬のコントロールについて学ぶ | | |
| 27 | 犬のトレーニング | 正の強化、負の強化について実際の犬を使い、犬がどのように学習し、行動が変化するのか理解する。 | | |
| 28 | 犬のトレーニング | 正の弱化、負の弱化について実際の犬を使い、犬がどのように学習し、行動が変化するのか理解する。 | | |
| 29 | 犬のトレーニング | ハズバンドリートレーニングについて学び、普段の飼育実習に活かす。 | | |
| 30 | 犬のトレーニング | ハズバンドリートレーニングについて学び、普段の飼育実習に活かす。 | | |

授業計画表

愛玩動物看護師

学科

盛岡ペットワールド専門学校

| | | |
|--|---|-----|
| 科目名 ペットビジネス教養Ⅰ (グルーミング学) | 教員名 天瀬 恵美子 | |
| 科目時間数： 30 時間 | 授業の種類： <input checked="" type="checkbox"/> 講義 · 演習 · <input checked="" type="checkbox"/> 実習 | |
| 必修・選択の別： <input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択 | 配当学年： 1 開講時期： <input checked="" type="checkbox"/> 前期 · <input checked="" type="checkbox"/> 後期 · 集中 | |
| 【授業の目的・ねらい】 モデル犬での実習を通して、犬の扱い方、作業の仕方を学ぶ。ケガ事故の無いように安全に行うことと、生体実習なので出来るだけ負担をかけないようにスムーズに行えるようになるのがねらい。 | | |
| 【愛玩動物看護師科ディプロマポリシーとの関連】 ① 基本的な動物看護師としての技術を獲得している ② 動物の体の構造、仕組みが理解できる ③ 人や動物の気持ちを考えて、コミュニケーションが取れる ④ 働くという事への心構えが出来ている | | |
| 【授業における達成課題】 筆記試験の正答率80%以上 複数人で1頭の犬のお手入れを適切に行うことができる | | |
| | 使用教材 | 出版社 |
| 学生用 | プリント等 | |
| 【教員担当の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 · 無 | | |
| 【内容】 ペットショップにてトリマーとして勤務経験がある | | |
| 【評価とその内容】 筆記試験での正答率80%以上、実技試験の合格、授業出席率80%以上 | | |
| 【必要な予習などの内容】 実習する犬について、カルテ等を確認して事前に実施内容を把握する | | |

| 科目名 | | 科目時間総数 | 時間 | 教員名 |
|-------------------------|------------------------------|---|------------|--------|
| ペットビジネス教養Ⅰ (グルーミング学) | | 30 | | 天瀬 恵美子 |
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | | |
| 1 | 回 オリエンテーション | 科目の概要 動議づけ | | |
| 2 | 回 グルーミング理論の 必要性 | グルーミングとは何かを説明できる。 | | |
| 3 | 回 犬体名称 骨格名称 | グルーミングで使う犬体名称を答えることができる。 犬の骨格や関節を理解できている。 | | |
| 4 | 回 グルーミング手順 | グルーミングの全体の流れを理解している。 | | |
| 5 | 回 グルーミング手順 道具の種類と使い方 | 犬体チェックの仕方と、必要な道具、チェックのポイントを説明できる。 | | |
| 6 | 回 グルーミング手順 道具の種類と使い方 | 爪切り、クリッピングの仕方と使用する道具と使い方を説明できる。 | | |
| 7 | 回 グルーミング手順 道具の種類と使い方 | ブラッシング、コーミングの仕方と使用する道具と使い方を説明できる。 | | |
| 8 | 回 グルーミング手順 道具の種類と使い方 | 耳そうじ、眼軟膏、肛門腺絞りの仕方と使用する道具と使い方を説明できる。 | | |
| 9 | 回 シャンプーリンスの種 類・仕方 | 各シャンプーの特徴、用法、用量を説明できる | | |
| 10 | 回 グルーミング手順 道具の種類と使い方 | シャンプーリンスの仕方と使用する道具と使い方を説明できる。 | | |
| 11 | 回 グルーミング手順 道具の種類と使い方 | ドライの作業の仕方と使用する道具と使い方を説明できる。 | | |
| 12 | 回 グルーミング手順 道具の種類と使い方 | ハサミの持ち方、ひげきりと足回りのカットの仕方と使用する道具と 使い方を説明できる。 | | |
| 13 | 回 ブラシを使ってブラッ シング | ブラシの持ち方とブラシの動かし方を実際にできる | | |
| 14 | 回 受付接客 | 事前準備の仕方と、受付の仕方を説明できる | | |
| 15 | 回 お返し接客 | お返しの電話のかけ方とお返しの仕方を説明できる。 | | |
| 16 | 回 カルテの書き方 領収書の書き方 | カルテ書き、領収書書きを出来る。 | | |
| 17 | 回 グルーミング手順の復 習 | 一通りの手順を説明できる。道具を正しい持ち方で持って動かせる。 | | |
| 18 | 回 マネキンのブラッシン グ | マネキン犬のブラッシングを正しく行える。 | | |
| 19 | 回 模擬手配表の読み取りとシ ミュレーションの仕方 | 手配表を読み取り、シミュレーションを行うためのカルテの準備がで きる。 | | |
| 20 | 回 模擬受付 | 受付を、模擬で出来る。 | | |
| 21 | 回 模擬お迎え電話 | お返しの電話を、模擬で出来る。 | | |
| 22 | 回 模擬お返し | 犬のお返しを、模擬で出来る。 | | |
| 23 | 回 マネキンで模擬実習 | 手配表の読み取り～犬のお返しまでをマネキン犬で出来る。 | | |
| 24 | 回 マネキンで模擬実習 | 手配表の読み取り～犬のお返しまでをマネキン犬で出来る。 | | |
| 25 | 回 マネキンで模擬実習 | 手配表の読み取り～犬のお返しまでをマネキン犬で出来る。 | | |
| 26 | 回 マネキンで模擬実習 | 手配表の読み取り～犬のお返しまでをマネキン犬で出来る。 | | |
| 27 | 回 グルーミング実習 | モデル犬でのグルーミングの一連の流れを行える | 飼い主さんの対応あり | |
| 28 | 回 グルーミング実習 | モデル犬でのグルーミングの一連の流れを行える | 飼い主さんの対応あり | |
| 29 | 回 グルーミング実習 | モデル犬でのグルーミングの一連の流れを行える | 飼い主さんの対応あり | |
| 30 | 回 グルーミング実習 | モデル犬でのグルーミングの一連の流れを行える | 飼い主さんの対応あり | |

| 科目名 ペットビジネス教養Ⅰ（就職実務） | | 科目時間総数 30 | 時間 | 教員名 柴野 梓 |
|-------------------------|--------------------|-----------------------------|----|-------------|
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | | |
| 1 | スタンダード プログラム第1回 | オリエンテーション | | |
| 2 | スタンダード プログラム第1回 | 第一印象、マナー、印象について | | |
| 3 | スタンダード プログラム第2回 | ディスカッションの種類 | | |
| 4 | スタンダード プログラム第2回 | KJ法を用いてのアイデア出し | | |
| 5 | スタンダード プログラム第3回 | 学ぶ意味について | | |
| 6 | スタンダード プログラム第3回 | 学ぶ意味について | | |
| 7 | スタンダード プログラム第4回 | 自己分析 自己理解 | | |
| 8 | スタンダード プログラム第4回 | 他者理解について | | |
| 9 | スタンダード プログラム第5回 | 動物系イベントを成功させるには | | |
| 10 | スタンダード プログラム第5回 | 動物系イベントを成功させるには | | |
| 11 | スタンダード プログラム第6回 | 経済と倫理観について | | |
| 12 | スタンダード プログラム第6回 | 経済と倫理観について | | |
| 13 | スタンダード プログラム第7回 | プロフェッショナルの意識とは | | |
| 14 | スタンダード プログラム第7回 | 社会人の意識とは | | |
| 15 | スタンダード プログラム第8回 | 20年後の未来を考える | | |
| 16 | スタンダード プログラム第8回 | SDGSの取り組みについて | | |
| 17 | スタンダード プログラム第9回 | 自己目標を立てる | | |
| 18 | スタンダード プログラム第9回 | 学校生活の仕方を考える | | |
| 19 | 就職実務 | 仕事をする目的 インターンシップ実習とは 書類の作り方 | | |
| 20 | 就職実務 | 依頼電話のかけ方 事前挨拶の仕方 | | |
| 21 | 就職実務 | 実習中の動きについて | | |
| 22 | 就職実務 | 実習中の動きについて | | |
| 23 | 就職実務 | お礼状の書き方 | | |
| 24 | 就職実務 | 書類の準備 | | |
| 25 | 就職実務 | 書類の準備 | | |
| 26 | 就職実務 | 就職活動について | | |
| 27 | 就職実務 | 就職活動について | | |
| 28 | 就職実務 | 就職活動について | | |
| 29 | 就職実務 | 就職活動について | | |
| 30 | 就職実務 | 就職活動について | | |

| 科目名 ペットビジネス教養 I (飼育実習) | | 科目時間総数 30 時間 | 教員名 市村 香織 |
|---------------------------|---------------|---------------------------------------|--------------|
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | |
| 1 回 | 服装 | 動物を飼育する際の服装について、理解する。 | |
| 2 回 | 掃除 | 床の拭き方、ぞうきんの絞り方、ほうきの扱いかたを学ぶ。 | |
| 3 回 | 消毒方法 | 適切な消毒方法を理解する。 | |
| 4 回 | イヌの飼育 | イヌとの接し方を理解し、イヌとあいさつし、警戒されない方法を理解する。 | |
| 5 回 | ネコの飼育 | ネコとの接し方を理解し、ネコとあいさつし、警戒されない方法を理解する。 | |
| 6 回 | 小動物の飼育 | 小動物との接し方を理解し、小動物とあいさつし、警戒されない方法を理解する。 | |
| 7 回 | イヌの飼育 | イヌの飼育に必要なとなる道具を理解する。 | |
| 8 回 | イヌの飼育 | 犬の飼育に必要なとなる道具を理解し、つかいこなせるようになる。 | |
| 9 回 | イヌの飼育 | 犬の飼育に必要なとなる道具を理解し、つかいこなせるようになる。 | |
| 10 回 | ネコの飼育 | ネコの飼育に必要なとなる道具を理解する。 | |
| 11 回 | ネコの飼育 | ネコの飼育に必要なとなる道具を理解し、つかいこなせるようになる。 | |
| 12 回 | ネコの飼育 | ネコの飼育に必要なとなる道具を理解し、つかいこなせるようになる。 | |
| 13 回 | 小動物の飼育 | 小動物の飼育に必要なとなる道具を理解する。 | |
| 14 回 | 小動物の飼育 | 小動物の飼育に必要なとなる道具を理解し、つかいこなせるようになる。 | |
| 15 回 | 小動物の飼育 | 小動物の飼育に必要なとなる道具を理解し、つかいこなせるようになる。 | |
| 16 回 | イヌの飼育 | イヌの体の構造を理解する。 | |
| 17 回 | イヌの飼育 | イヌの体の構造を理解し、実際の犬を観察し。体がどのように動くかを知る。 | |
| 18 回 | ネコの飼育 | ネコの体の構造を理解する。 | |
| 19 回 | ネコの飼育 | ネコの体の構造を理解し、実際の犬を観察し。体がどのように動くかを知る。 | |
| 20 回 | 小動物の飼育 | 小動物の体の構造を理解する。 | |
| 21 回 | 小動物の飼育 | 小動物の体の構造を理解し、実際の犬を観察し。体がどのように動くかを知る。 | |
| 22 回 | イヌの飼育 | イヌの体の構造を理解し、抱っこをする、保定する方法を身に付ける。 | |
| 23 回 | イヌの飼育 | イヌの体の構造を理解し、抱っこをする、保定する方法を身に付ける。 | |
| 24 回 | ネコの飼育 | ネコの体の構造を理解し、抱っこをする、保定する方法を身に付ける。 | |
| 25 回 | ネコの飼育 | ネコの体の構造を理解し、抱っこをする、保定する方法を身に付ける。 | |
| 26 回 | 小動物の飼育 | 小動物の体の構造を理解し、抱っこをする、保定する方法を身に付ける。 | |
| 27 回 | 小動物の飼育 | 小動物の体の構造を理解し、抱っこをする、保定する方法を身に付ける。 | |
| 28 回 | イヌの飼育 | 犬のお世話を行う | |
| 29 回 | ネコの飼育 | 猫のお世話を行う | |
| 30 回 | 小動物の飼育 | 小動物のお世話を行う | |

授業計画表

愛玩動物看護師

学科

盛岡ペットワールド専門学校

| | | |
|--|---|--|
| 科目名 ペットビジネス教養Ⅰ (行事) | 教員名 柴野 梓 | |
| 科目時間数 : 100 時間 | 授業の種類 : <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 実習 | |
| 必修・選択の別 : <input checked="" type="checkbox"/> 必修・選択 | 担当学年 : 1 | 開講時期 : <input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期 ・ 集中 |
| <p>【授業の目的・ねらい】 学校生活を実りあるものにするための考え方を学ぶ。 社会人に必要となる社会人基礎力を磨き、社会で働く心構えを身に付ける。</p> | | |
| <p>【愛玩動物看護師科ディプロマポリシーとの関連】</p> <p>① 基本的な動物看護師としての技術を獲得している 2. 動物の体の構造、仕組みが理解できる ③ 人や動物の気持ちを考えて、コミュニケーションが取れる ④ 働くという事への心構えが出来ている</p> | | |
| <p>【授業全体の内容の概要】 オリエンテーション、学校行事、国内研修等。</p> <p>【授業における達成課題】 学校行事を通じて、目標達成やその過程を経験して日常生活や就職後の活動で活躍できる。</p> | | |
| | 使用教材 | 出版社 |
| 学生用 | プリント等 | |
| <p>【教員担当の実務経験の有無】 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無</p> <p>【内 容】 動物病院に動物看護師として勤務経験がある。</p> | | |
| <p>【評価方法とその内容】 受講姿勢と取組み成果、レポート、授業出席率80%以上。</p> | | |
| <p>【必要な予習等の内容】 行事等について、事前に担当分野の内容を打ち合わせして授業に参加することを指示して実行する。</p> | | |

| 科目名 ペットビジネス教養 I (行事) | | 科目時間総数 100 | 時間 | 教員名 柴野 梓 |
|-------------------------|---------------|---------------|----------|-------------|
| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 | | |
| 1 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 2 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 3 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 4 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 5 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 6 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 7 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 8 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 9 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 10 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 11 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 12 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 13 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 14 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 15 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 16 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 17 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 18 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 19 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 20 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 21 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 22 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 23 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 24 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 25 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 26 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 27 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 28 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 29 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |
| 30 回 | 特別授業 | オリエンテーション | 学校での過ごし方 | |

| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 |
|---------|---------------|--------------|
| 31 回 | 特別授業 | 学生交流会 |
| 32 回 | 特別授業 | 学生交流会 |
| 33 回 | 特別授業 | 学生交流会 |
| 34 回 | 特別授業 | 学生交流会 |
| 35 回 | 特別授業 | 学生交流会 |
| 36 回 | 特別授業 | 学生交流会 |
| 37 回 | 特別授業 | 健康診断 |
| 38 回 | 特別授業 | 健康診断 |
| 39 回 | 特別授業 | 避難訓練 |
| 40 回 | 特別授業 | 同行避難について |
| 41 回 | 行事 | ドッグフェスティバル準備 |
| 42 回 | 行事 | ドッグフェスティバル準備 |
| 43 回 | 行事 | ドッグフェスティバル準備 |
| 44 回 | 行事 | ドッグフェスティバル準備 |
| 45 回 | 行事 | ドッグフェスティバル準備 |
| 46 回 | 行事 | ドッグフェスティバル準備 |
| 47 回 | 行事 | ドッグフェスティバル準備 |
| 48 回 | 行事 | ドッグフェスティバル準備 |
| 49 回 | 行事 | ドッグフェスティバル準備 |
| 50 回 | 行事 | ドッグフェスティバル準備 |
| 51 回 | 行事 | ドッグフェスティバル準備 |
| 52 回 | 行事 | ドッグフェスティバル準備 |
| 53 回 | 行事 | ドッグフェスティバル準備 |
| 54 回 | 行事 | ドッグフェスティバル準備 |
| 55 回 | 行事 | ドッグフェスティバル準備 |
| 56 回 | 行事 | ドッグフェスティバル準備 |
| 57 回 | 行事 | ドッグフェスティバル |
| 58 回 | 行事 | ドッグフェスティバル |
| 59 回 | 行事 | ドッグフェスティバル |
| 60 回 | 行事 | ドッグフェスティバル |

| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 |
|-----|---------------|-----------------|
| 61回 | 行事 | スポーツ大会 |
| 62回 | 行事 | スポーツ大会 |
| 63回 | 行事 | スポーツ大会 |
| 64回 | 行事 | 学園祭 |
| 65回 | 行事 | 学園祭 |
| 66回 | 行事 | 学園祭 |
| 67回 | 行事 | 学園祭 |
| 68回 | 行事 | 学園祭 |
| 69回 | 行事 | 学園祭 |
| 70回 | 行事 | 学園祭 |
| 71回 | 行事 | 学園祭 |
| 72回 | 行事 | 学園祭 |
| 73回 | 行事 | 学園祭 |
| 74回 | 特別授業 | 動物愛護週間 ボランティア活動 |
| 75回 | 特別授業 | 動物愛護週間 ボランティア活動 |
| 76回 | 特別授業 | 動物愛護週間 ボランティア活動 |
| 77回 | 特別授業 | 国内研修 |
| 78回 | 特別授業 | 国内研修 |
| 79回 | 特別授業 | 国内研修 |
| 80回 | 特別授業 | 国内研修 |
| 81回 | 特別授業 | 国内研修 |
| 82回 | 特別授業 | 国内研修 |
| 83回 | 特別授業 | 国内研修 |
| 84回 | 特別授業 | 国内研修 |
| 85回 | 特別授業 | 国内研修 |
| 86回 | 特別授業 | 国内研修 |
| 87回 | 行事 | M C L スポーツ大会 |
| 88回 | 行事 | M C L スポーツ大会 |
| 89回 | 行事 | M C L スポーツ大会 |

| 時間数 | 教育に含むべき事項・テーマ | 主な学習内容と到達目標 |
|----------|---------------|-----------------------|
| 90 回 | 行事 | ワンドふるL i f e i n はなまき |
| 91 回 | 行事 | ワンドふるL i f e i n はなまき |
| 92 回 | 行事 | ワンドふるL i f e i n はなまき |
| 93 回 | 行事 | ワンドふるL i f e i n はなまき |
| 94 回 | 行事 | ワンドふるL i f e i n はなまき |
| 95 回 | 行事 | ワンドふるL i f e i n はなまき |
| 96 回 | 行事 | ワンドふるL i f e i n はなまき |
| 97 回 | 行事 | ワンドふるL i f e i n はなまき |
| 98 回 | 行事 | ワンドふるL i f e i n はなまき |
| 99 回 | 行事 | ワンドふるL i f e i n はなまき |
| 100 回 | 行事 | ワンドふるL i f e i n はなまき |